

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																														
福岡医健・スポーツ専門学校		平成14年4月1日		古谷野 潔		〒 812-0032 (住所) 福岡県福岡市博多区石城町7番30号 (電話) 092-262-2119																														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																														
学校法人 滋慶学園		昭和58年12月23日		浮舟 邦彦		〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311																														
分野	認定課程名	認定学科名	専任士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ科学科 (アスレティックトレーナーコース)	平成16(2004)年度	-	平成26(2014)年度																															
学科の目的	スポーツ選手の健康管理、ケガの予防、スポーツ障害、外傷の応急処置、アスレティックリハビリテーション、体力トレーニング、コンディショニングを学び、傷害予防とコンディショニングの専門家としての役割だけでなく、アスリートの教育者、相談役、また選手をサポートしていく上でのコーディネーターができる人材を育成する。																																			
学科の特徴 (主な教育内容、取得可能な資格等)	<主な教育内容> スポーツ業界から求められる即戦力を養うため、産学連携教育を柱として人材育成を行い、目標とする資格取得を目指す。 <取得可能な資格> 健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー、SAQインストラクターレベル1、NSCA-CPT、トレーニング指導者、FTPマットピラティス、健康予防管理専門士																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																													
2年	昼間	※単位数時間、単位いずれかに記入 1,700 単位数時間	1,455 単位数時間	1,050 単位数時間	360 単位数時間	0 単位数時間	0 単位数時間																													
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																																
160 人の内数	88 人	0 人	0 %	11 %																																
就職等の状況	■卒業者数(C) : 22 人 ■就職希望者数(D) : 21 人 ■就職者数(E) : 21 人 ■地元就職者数(F) : 13 人 ■就職率(E/D) : 100 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 62 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 95 % ■進学者数 : 1 人 ■その他 : (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) スポーツクラブ スポーツ施設 整骨院																																			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL: 無																																			
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.iken.ac.jp/course/sports-science/">https://www.iken.ac.jp/course/sports-science/</a>																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位数による算定) <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,865 単位数時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>60 単位数時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>30 単位数時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>765 単位数時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位数時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>30 単位数時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位数時間</td></tr> </table> (B: 単位数による算定) <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>								総授業時数	2,865 単位数時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	60 単位数時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	30 単位数時間	うち必修授業時数	765 単位数時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位数時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	30 単位数時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位数時間	総単位数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	2,865 単位数時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	60 単位数時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	30 単位数時間																																			
うち必修授業時数	765 単位数時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位数時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	30 単位数時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位数時間																																			
総単位数	単位																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																			
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																			
うち必修単位数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																			
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>3 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>2 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>5 人</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td> <td></td> <td>4 人</td> </tr> </table>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人	計		5 人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4 人							
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人																																		
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人																																		
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																		
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人																																		
計		5 人																																		
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4 人																																		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

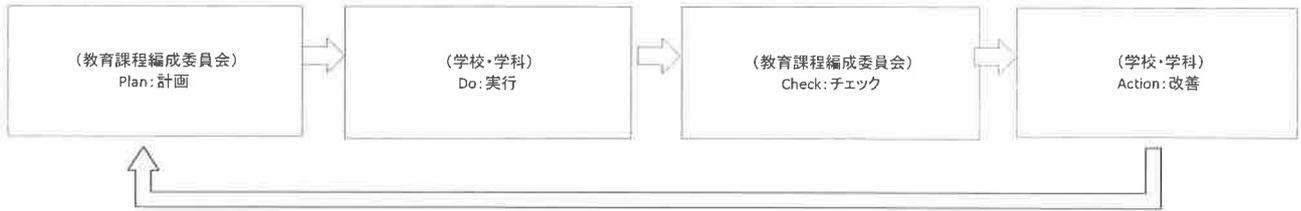
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体の役職員及び実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業の役職員が参画する教育課程編成委員会を年2回実施し、業界の動向や変化、それに伴うニーズや必要な人材像を把握すると共に、実施している授業やカリキュラム等を各委員に検証してもらいアドバイスや意見を頂く。また、教員による実習先訪問や就職担当による企業訪問を通して更なる情報収集を図る。それらを十分に生かしつつ、カリキュラムや授業方法の改善、授業科目の開設等を図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程の編成は、理事会の下に設置された教育課程編成委員会において討議した内容を十分に考慮したうえで、学科会議において編成を行うものとし、委員会の適切な運営は理事会が担保することになっている。また、教員組織規則において、「委員会の審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施する教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従って委員会を運営する。(以下図により、編成意思決定の過程を示す)



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
前田 弘	公益財団法人 日本サッカー協会 医学委員会委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
安積 研二	AcroBats株式会社 取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
土本 佳正	福岡医健・スポーツ専門学校 事務局長・スポーツ科学科 学科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
古谷野 潔	福岡医健・スポーツ専門学校 学校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
河口 青児	福岡医健・スポーツ専門学校 副校長・教務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
松原 敏昭	福岡医健・スポーツ専門学校 教務事務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

教育課程編成委員会は年2回開催し、第1回目を毎年5月、第2回目を翌年1月に実施している。今年度開催(予定)日時は以下の通り。また、委員会欠席委員に対しては個別に意見聴取を行うなど、必要に応じて、適宜適切に分科会等を開催する場合がある。

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月17日 15:30～17:00

第2回 令和7年1月24日 13:00～15:00 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

専門学校の役割は「各種資格の合格率をあげること」「一つでも多くの資格を取得させること」「希望する仕事・産業界に就職させること」などの意見を多くの委員から頂いた。

特にAT資格は、医療系国家資格ではないが医療系国家資格よりも難しく価値は高いので、AT資格の合格率を上げることが重要との意見を頂いた。そこで、通常授業以外の空いた時間に補講として過去問題をひたすら解く機会を設けると共に、AT理論試験突破に向けた合宿を計画している。また、「やる気スイッチ」・「現場での楽しさ」などモチベーションを高めていくことにも努めている。

また、良い就職を勝ち取るためには実践力の強化が重要である旨のアドバイスを頂いたので、現場経験の積み重ねや実習の強化として、ソフトバンクホークスでの実習、女子サッカー福岡J・アンクラスやアメリカンフットボール福岡SUNSでの活動等年間通したゼミ活動の展開などの改善を図っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、「学校と業界が協力をして、業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学共同教育」を開校以来実践してきた。即戦力としての職業人教育を行うため、業界と連携して専門知識・技術、人間力を有した人材育成を行っている。このため、特に実習・演習科目に於いては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施及び達成度評価を行っている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。

更に、業界研修・臨床実習等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。実習実施前の協議を徹底すると共に、教員による実習巡回を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
体力測定法	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	体力の構成概念に基づいた各要素の知識を深めると共に、それぞれの正しい体力測定法を理解し、説明することができる。	株式会社ライコ 計1施設
業界研修	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	学習した知識・技術を実践で使い、実践力や社会人基礎力を身につけることができる。	加野病院、スポーツクラブNAS博多、ゴールドジム博多リパレイン、セントラルウェルネス クラブ24野間大池、スポーツクラブエスタクオリア千早+24 他 計10施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研究会や講習会に専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会  
主 催:公益財団法人 健康・体力づくり事業財団  
実施日:令和6年3月13日  
参加者:スポーツ科学科専任教員2名  
内 容:健康運動実践指導者資格に関わる実務内容(テキスト改訂/評価総括/R6年認定試験実施計画など)について

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:キャリア教育インストラクター研修  
主 催:滋慶教育科学研究所  
実施日:令和6年1月19日  
参加者:スポーツ科学科専任教員1名  
内 容:キャリア教育を実践するための指導法や評価法について

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:第13回日本アスレティックトレーニング学会  
主 催:日本アスレティックトレーニング学会  
実施日:令和6年9月14・15日  
参加者:スポーツ科学科専任教員1名  
内 容:アスレティックトレーニングを支える経験・研究・教育の連携

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:2024年度 FDマイクロレベル研修 I  
主 催:滋慶教育科学研究所  
実施日:令和6年4月12日  
参加者:スポーツ科学科専任教員2名  
内 容:学生変化に沿った教授法の基本(マインドとスキル)を習得

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、卒業生、保護者、地域住民、高等学校、企業により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価して、様々な角度からアドバイスや支援を行うことを通して、学校運営の改善に活用することを方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

運営部長を始め、学校長、事務局長、教務部長、学科長等で共有し、全スタッフに周知して、多岐に渡る学校運営の改善に努めている。特に、日々の学校運営の中で直ちに改善・対応が可能なことは、学校長の指導の下、学校全体に係る事案は事務局長・教務部長が中心となり速やかに改善に取り組み、学科に係ることは学科長が中心となり速やかに改善を図っている。また、改善に新たな予算確保が必要な案件は事務局長が中心となって次年度に向けて予算組を行い、改善を図っている。加えて、学則変更等が必要な案件は、学校長の指導の下、教務部長が中心となって学則変更手続きを行いながら改善を図っている。  
 学校関係者評価委員会を開催し、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した昨年度の学校自己点検報告書について、当校に関係の深い13名の学校関係者評価委員に評価していただき、各項目について概ね「優れている」との評価を頂いた。また「入学定員の充足」「中途退学者の低減」「地域との交流を更に深める」など多くのご意見を頂いた。  
 学校のリーダー会議、学科会議、全体会議などでこれらの意見を共有し、検討・環境整備に取り組んでいきます。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
村田 栄治	村田整骨院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(柔道整復科)
要 信義	要鍼灸院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(鍼灸科)
橋本 修二	社会医療法人財団池友会 福岡和白病院 医療連携室 主幹	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(救急救命公務員科)
福田 智	医療法人 せと山荘クリニック 統括部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(理学療法科)
丸田 淳司	医療法人誠和会 牟田病院 医療部門科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(作業療法科)
案西 浩平	医療法人社団 桜香 あんざい歯科クリニック 理事長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(歯科衛生士科)
平野 千恵美	医療法人相生会 宮田病院 看護師長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(看護科)
安積 研二	AcroBats株式会社 取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(スポーツ科学科)
中西 祐介	株式会社サンドラッグ 人事部採用課主任	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(薬業科)
谷口 貴隆	スポーツ科学科 卒業生	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生代表
富崎 尚美	在校生(鍼灸科3年)保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者代表
清輔 正孝	福岡県立香椎高等学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高等学校関係者
戎崎 淳一	福岡市博多区大浜公民館 館長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )  
 URL: <https://www.iken.ac.jp/school/public-info/>  
 公表時期: 令和6年5月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年定める事業計画の実行方針で提起された目標(カリキュラムのイノベーション、中途退学率の低減、就職100%、国家試験合格率100%等)を具現化するために、企業等からヒアリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成している。その為にも、学校の方針や考え方に加え、様々な詳細情報を十分に理解して頂いた上で、意見やアドバイス、支援を頂くことが重要となる。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である非常勤講師との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、企業とタイアップして行うイベント等あらゆる機会を活用して、積極的に情報の提供を行っている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校長名 所在地 連絡先 学校の沿革 建学の理念 学校安全関連 保健対策
(2) 各学科等の教育	入学方法 定員 在校生数 カリキュラム 学年暦 各学科教育目標 教科目標 シンパス 卒業進級判定基準 取得する称号
(3) 教職員	教職員数 学校組織図 教員の実績
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学連携教育 キャリア教育ロードマップ 業界研修 キャリアセンター 就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	設備紹介 海外実学研修 部活動 学友会活動 産業界・行政・地域との連携
(6) 学生の生活支援	中途退学防止支援 就職支援 健康支援 学費相談 進路変更支援 支援機関 支援制度 学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧 学費サポート(奨学金・教育ローン案内・学費分割納入制度 等)
(8) 学校の財務	法人財務資料
(9) 学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生支援 海外研修実績
(11) その他	社会・地域貢献(ボランティア活動)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) (広報誌等の刊行物) その他( )

URL: <https://www.iken.ac.jp/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 スポーツ科学科 アスレティックトレーナーコース)																
分類	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			英会話	国際化に対応できる日常英会話を身につけるとともに、グローバルな感性を養うことができる。	1前	30	2	○			○				○
2	○			コミュニケーションスキル	対人援助職として必要なコミュニケーションを行うことができる。	1前	30	2	○			○				○
3	○			コンピュータ	ビジネス能力の一つとして、Microsoft officeの基礎技術を修得することができる。	1後	30	2		○		○				○
4		○		就職試験対策講座	就職活動で必要となるスキルとマナーを身につけ、就職活動に活かすことができる。	2前	30	2	○			○				○
5	○			機能的解剖学	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、運動に関わる身体構造や機能の説明をすることができる。	1前	30	2	○			○				○
6	○			機能的解剖学2	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、運動に関わる身体構造や機能の説明をすることができる。	1後	30	2	○			○				○
7	○			スポーツ生理学	運動によって生じる体の変化や適応状態について基礎的な知識を持ち、教育によって起こる身体的機能変化を理解することができる。	1前	30	2	○			○				○
8	○			スポーツ生理学2	運動によって生じる体の変化や適応状態について基礎的な知識を持ち、教育によって起こる身体的機能変化を理解することができる。	1後	30	2	○			○				○
9	○			発育発達	発達段階に応じた運動指導を学び、指導を行うことができる。	1後	30	2	○			○				○
10		○		健康管理概論	健康づくりや疾病予防の基礎的な知識の考え方を理解し、年代層に応じた健康指導を説明することができる。	2前	30	2	○			○				○
11	○			ボディケア	ケアの基本的なテクニックを学び、ボディケアを身につけて実践することができる。	1前	30	2		○		○				○
12	○			スポーツ障害	運動によって生じる整形外科的障害を理解し、目的に応じたテーピングを実践することができる。	1前	30	2		○		○			○	
13	○			スポーツ医学	スポーツ障害にもならず、内科的疾病を有する人々のスポーツ医学や薬物の基礎知識を理解し、障害予防でのリハビリテーション、コンディショニングを修得することができる。	1後	30	2	○			○				○
14	○			スポーツ心理学	運動指導する際に心理学に関する科学的な専門知識を身につけ、指導に活かすことができる。	1前	30	2	○			○				○
15	○			体力測定法	体力の構成概念に基づいた各要素の知識を深めると共に、それぞれの正しい体力測定法を理解し、説明することができる。	1前	30	2		○		○				○
16	○			スポーツ栄養学	一般人の健康維持のための栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を説明することができる。	1前	30	2	○			○				○
17	○			スポーツ栄養学2	一般人の健康維持のための栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を説明することができる。	1後	30	2	○			○				○
18	○			スポーツ社会学	スポーツの歴史を学び、スポーツが社会へ及ぼす影響について、読み解く力を身につけてまとめることができる。	1後	30	2	○			○				○



40	○	○	○	専門科目	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 前	30	2	○	△	○	○								
41	○	○	○	専門科目2	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 前	30	2	○	△	○	○								
42	○	○	○	専門科目3	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 後	30	2	○	△	○	○								
43	○	○	○	専門科目4	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 後	30	2	○	△	○	○								
44	○	○	○	イベント・ボランティア活動	学内外で行われる様々なイベントやボランティア活動を通してリーダーシップ、フォローワーシップを体得することができる。	1 通・ 2 通	60	2			○	○	○	○						
45	○	○	○	海外実学研修	海外の歴史や文化に触れ、国際的な感性を養う。また、施設の見学を通して最先端の技術を学び、学んできたことへの理解を深めることができる。	1 後	時数による					○	○	○						
46	○	○	○	特別講義	業界で活躍している特別講師を招き、最新の話題についての講義を受け、理解を深めることができる。	1 通・ 2 通	4回で1単位			○		○							○	
47	○	○	○	健康運動実践指導者基礎講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 前	30	2	○			○	○							
48	○	○	○	健康運動実践指導者筆記試験対策講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 後	30	2	○			○							○	
49	○	○	○	健康運動実践指導者実技試験対策講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 後	30	2		○		○							○	
50	○	○	○	アスリートフードマイスター	アスリートのパフォーマンスを最大化するための最適な食プログラムを学び、クライアントに合わせた食事指導をすることができる。	1 前	15	1	○			○								○
51	○	○	○	SAQインストラクター レベル1試験対策講座	スピードシステムや解剖学的な視点から知識や動作を獲得し、コーチング視点を身につけることができる。	1 前	30	2		○		○								○
52	○	○	○	幼児体育指導者	子どもに身体を動かす楽しさや素晴らしさを伝えることができる。理論・指導手順・手本・補助を正しく学び、自信を持って指導できるスキルを身につけることができる。	1 通・ 2 通	15	1		○		○								○
53	○	○	○	FTPマットピラティス受験対策講座	身体の内側に意識を集中させ、全身をバランスよく動かしながら、身体の筋肉を鍛えゆがみのない柔軟性のあるしなやかな身体を身につけ、指導することができる。	2 前	30	2		○		○								○
54	○	○	○	ADI筆記試験対策講座	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2	○			○								○
55	○	○	○	ADI実技試験対策講座	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2		○		○								○
56	○	○	○	スキルアップ	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2		○		○								○
57	○	○	○	トレーニング指導者基礎講座	科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を修得し、スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導ができるようになる。	2 前	30	2	○			○								○
58	○	○	○	トレーニング指導者受験対策講座	科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を修得し、スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導ができるようになる。	2 後	30	2	○			○								○
59	○	○	○	スポーツシューフィッター	足の機能解剖や疾患の評価、治療に関する知識や形態観察とサイジング技術を修得し、目的に合った正しいシューズ選びとインソール選択のアドバイスができるようになる。	1 後	15	1	○			○								○
60	○	○	○	AT受験対策講座	専門的な医学知識を有し、競技者の健康管理、スポーツ障害・外傷の予防、救急処置、アスレティックリハビリテーション及び体力トレーニング、コンディショニングなどができるようになる。	1 後	30	2	○			○								○



82	○	スポーツ内科学	内臓器官などの疾患の病態、症状について認識できるようになるとともに、運動時の対応策（運動許可の条件を含む）、処置、予防策を講じることができる。	1 後	30	2	○			○			○	
83	○	応急処置	救急処置を実施する者は正しい知識とモラルを十分に持つ必要があることを理解し、救急処置を実施する上で必要となる基本的な留意点について理解できる。	2 前	30	2	○		○			○		
84	○	測定評価1	機能評価のプロセスを説明できるようになり、機能評価に必要な検査測定項目をあげることができる。機能評価における検査測定結果を解釈し、運動機能に関する問題点を抽出できる。	2 前	30	2	○		○			○		
85	○	アスレティックリハビリテーション	アスレティックリハビリテーションの概要（目標、過程、関係職種と役割、考慮すべき事項等）について理解し、アスレティックリハビリテーションを講じることができる。	2 前	30	2	○		○			○		
86	○	コンディショニング演習2	コンディショニング評価の必要性を理解し、その評価方法を学び評価に適したトレーニング計画の立案、設計ができる。	2 前	30	2	○		○			○		
87	○	トレーナー講座	コンディショニング評価の必要性を理解し、その評価方法を学び評価に適した計画の立案、設計ができる。	2 前	30	2	○		○			○		
88	○	アスレティックリハビリテーション2	アスレティックリハビリテーションの概要（目標、過程、関係職種と役割、考慮すべき事項等）について理解し、アスレティックリハビリテーションを講じることができる。	2 後	30	2	○		○			○		
89	○	測定評価2	機能評価のプロセスを説明できるようになり、機能評価に必要な検査測定項目をあげることができる。機能評価における検査測定結果を解釈し、運動機能に関する問題点を抽出できる。	2 後	30	2	○		○			○		
90	○	アスレティックリハビリテーション3	アスレティックリハビリテーションの概要（目標、過程、関係職種と役割、考慮すべき事項等）について理解し、アスレティックリハビリテーションを講じることができる。	2 後	30	2	○		○			○		
91	○	ボディケア2	ケアの基本的なテクニックを学び、ボディケアを身につけ実践できる。	2 後	30	2	○		○			○		
92	○	アスレティックトレーナー実習	実際のスポーツ現場における実習を通して、アスレティックトレーナーとしての技術を身につけることができる。	1 通・ 2 通	180	6			○		○		○	
合計					92	科目	179							単位（単位時間）

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件	当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を認定されない学科目（不合格）が1科目以上あれば卒業できない。また、履修すべき学科目のいずれかについて、出席回数が総授業回数の3分の2未満の者は卒業できない。	1学年の学期区分	2期
履修方法	講義・演習・実技・実習のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。選択必修科目と自由選択科目を履修し、各科目66.7%以上の出席し試験等による60点以上の評定で単位取得する。	1学期の授業期間	15週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
福岡医療・スポーツ専門学校		平成14年4月1日	古谷野 潔		〒 812-0032 (住所) 福岡県福岡市博多区石城町7番30号 (電話) 092-262-2119		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 滋慶学園		昭和58年12月23日	浮舟 邦彦		〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ科学科 (スポーツトレーナーコース)	平成16(2004)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	一般の方からトップアスリートまでスポーツ選手を中心に、トレーニング指導、コンディショニングの維持管理、傷害の予防・処置、リハビリテーションなどを行える人材を育成する。						
学科の特徴 (主な教育内容、取得可能な資格等)	<主な教育内容> スポーツ業界から求められる即戦力を養うため、産学連携教育を柱として人材育成を行い、目標とする資格取得を目指す。 <取得可能な資格> SAQインストラクター レベル1、NSCA-CPT、健康予防管理専門士、健康運動実践指導者、トレーニング指導者、ラディカルパワー、ADI						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入 1,700 単位時間 単位	1,365 単位時間 単位	1,380 単位時間 単位	300 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
160 人の内数	38 人	0 人	0 %	3 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		18 人				
	■就職希望者数(D)		18 人				
	■就職者数(E)		18 人				
	■地元就職者数(F)		12 人				
	■就職率(E/D)		100 %				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		67 %				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %				
	■進学者数		0 人				
	■その他						
	(令和 5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)						
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) スポーツクラブ スポーツ施設 整骨院							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無				
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.iken.ac.jp/course/sports-science/">https://www.iken.ac.jp/course/sports-science/</a>						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		3,045 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数		30 単位時間					
うち必修授業時数		765 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		30 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
(B: 単位数による算定)							
総単位数		単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位					
うち企業等と連携した演習の単位数		単位					
うち必修単位数		単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		2 人				
	計		5 人				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4 人					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

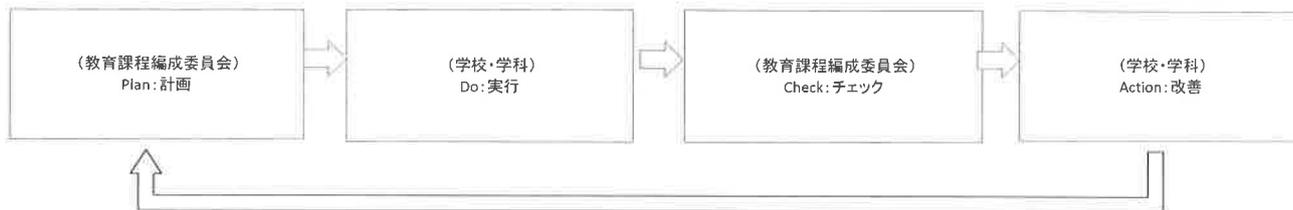
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体の役職員及び実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業の役職員が参画する教育課程編成委員会を年2回実施し、業界の動向や変化、それに伴うニーズや必要な人材像を把握すると共に、実施している授業やカリキュラム等を各委員に検証してもらいアドバイスや意見を頂く。また、教員による実習先訪問や就職担当による企業訪問を通して更なる情報収集を図る。それらを十分に生かしつつ、カリキュラムや授業方法の改善、授業科目の開設等を図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程の編成は、理事会の下に設置された教育課程編成委員会において討議した内容を十分に考慮したうえで、学科会議において編成を行うものとし、委員会の適切な運営は理事会が担保することになっている。また、教員組織規則において、「委員会の審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施する教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従って委員会を運営する。(以下図により、編成意思決定の過程を示す)



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
前田 弘	公益財団法人 日本サッカー協会 医学委員会委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
安積 研二	AcroBats株式会社 取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
土本 佳正	福岡医健・スポーツ専門学校 事務局長・スポーツ科学科 学科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
古谷野 潔	福岡医健・スポーツ専門学校 学校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
河口 青児	福岡医健・スポーツ専門学校 副校長・教務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
松原 敏昭	福岡医健・スポーツ専門学校 教務事務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

教育課程編成委員会は年2回開催し、第1回目を毎年5月、第2回目を翌年1月に実施している。今年度開催(予定)日時は以下の通り。また、委員会欠席委員に対しては個別に意見聴取を行うなど、必要に応じて、適宜適切に分科会等を開催する場合がある。

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月17日 15:30～17:00

第2回 令和7年1月24日 13:00～15:00 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

専門学校の役割は「各種資格の合格率をあげること」「一つでも多くの資格を取得させること」「希望する仕事・産業界に就職させること」などの意見を多くの委員から頂いた。

特にAT資格は、医療系国家資格ではないが医療系国家資格よりも難しく価値は高いので、AT資格の合格率を上げることが重要との意見を頂いた。そこで、通常授業以外の空いた時間に補講として過去問題をひたすら解く機会を設けると共に、AT理論試験突破に向けた合宿を計画している。また、「やる気スイッチ」「現場での楽しさ」などモチベーションを高めていくことにも努めている。

また、良い就職を勝ち取る為には実践力の強化が重要である旨のアドバイスを頂いたので、現場経験の積み重ねや実習の強化として、ソフトバンクホークスでの実習、女子サッカー福岡J・アンクラスやアメリカンフットボール福岡SUNSでの活動等年間通したゼミ活動の展開などの改善を図っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、「学校と業界が協力をして、業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学共同教育」を開校以来実践してきた。即戦力としての職業人教育を行うため、業界と連携して専門知識・技術、人間力を有した人材育成を行っている。このため、特に実習・演習科目に於いては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施及び達成度評価を行っている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。

更に、業界研修・臨床実習等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。実習実施前の協議を徹底すると共に、教員による実習巡回を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
体力測定法	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	体力の構成概念に基づいた各要素の知識を深めると共に、それぞれの正しい体力測定法を理解し、説明することができる。	株式会社ライコ 計1施設
業界研修	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	学習した知識・技術を実践で使い、実践力や社会人基礎力を身につけることができる。	加野病院、スポーツクラブNAS博多、ゴールドジム博多リバレイン、セントラルウェルネス クラブ24野間大池、スポーツクラブエスタクオリア千早+24 他 計10施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講習会に専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会  
 主催: 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団  
 実施日: 令和6年3月13日  
 参加者: スポーツ科学科専任教員2名  
 内容: 健康運動実践指導者資格に関わる実務内容(テキスト改訂/評価総括/R6年認定試験実施計画など)について

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: キャリア教育インストラクター研修  
 主催: 滋慶教育科学研究所  
 実施日: 令和6年1月19日  
 参加者: スポーツ科学科専任教員1名  
 内容: キャリア教育を実践するための指導法や評価法について

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 第13回日本アスレティックトレーニング学会  
 主催: 日本アスレティックトレーニング学会  
 実施日: 令和6年9月14・15日  
 参加者: スポーツ科学科専任教員1名  
 内容: アスレティックトレーニングを支える経験・研究・教育の連携

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 2024年度 FDマイクロレベル研修 I  
 主催: 滋慶教育科学研究所  
 実施日: 令和6年4月12日  
 参加者: スポーツ科学科専任教員2名  
 内容: 学生変化に沿った教授法の基本(マインドとスキル)を習得

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、卒業生、保護者、地域住民、高等学校、企業により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価して、様々な角度からアドバイスや支援を行うことを通して、学校運営の改善に活用することを方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

運営部長を始め、学校長、事務局長、教務部長、学科長等で共有し、全スタッフに周知して、多岐に渡る学校運営の改善に努めている。特に、日々の学校運営の中で直ちに改善・対応が可能なことは、学校長の指導の下、学校全体に係る事案は事務局長・教務部長が中心となり速やかに改善に取り組み、学科に係ることは学科長が中心となり速やかに改善を図っている。また、改善に新たな予算確保が必要な案件は事務局長が中心となって次年度に向けて予算組を行い、改善を図っている。加えて、学則変更等が必要な案件は、学校長の指導の下、教務部長が中心となって学則変更手続きを行いながら改善を図っている。

学校関係者評価委員会を開催し、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した昨年度の学校自己点検報告書について、当校に關係の深い13名の学校関係者評価委員に評価していただき、各項目について概ね「優れている」との評価を頂いた。また「入学定員の充足」「中途退学者の低減」「地域との交流を更に深める」など多くのご意見を頂いた。

学校のリーダー会議、学科会議、全体会議などでこれらの意見を共有し、検討・環境整備に取り組んでいきます。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
村田 栄治	村田整骨院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(柔道整復科)
要 信義	要鍼灸院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(鍼灸科)
橋本 修二	社会医療法人財団池友会 福岡和白病院 医療連携室 主幹	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(救急救命公務員科)
福田 智	医療法人 せと山荘クリニック 統括部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(理学療法科)
丸田 淳司	医療法人誠和会 牟田病院 医療部門科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(作業療法科)
案西 浩平	医療法人社団 桜香 あんざい歯科クリニック 理事長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(歯科衛生士科)
平野 千恵美	医療法人相生会 宮田病院 看護師長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(看護科)
安積 研二	AcroBats株式会社 取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(スポーツ科学科)
中西 祐介	株式会社サンドラッグ 人事部採用課主任	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(薬業科)
谷口 貴隆	スポーツ科学科 卒業生	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生代表
富崎 尚美	在校生(鍼灸科3年)保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者代表
清輔 正孝	福岡県立香椎高等学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高等学校関係者
戒崎 淳一	福岡市博多区大浜公民館 館長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL : <https://www.iken.ac.jp/school/public-info/>

公表時期: 令和6年5月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年定める事業計画の実行方針で提起された目標(カリキュラムのイノベーション、中途退学率の低減、就職100%、国家試験合格率100%等)を具現化するために、企業等からヒアリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成している。その為にも、学校の方針や考え方に加え、様々な詳細情報を十分に理解して頂いた上で、意見やアドバイスを、支援を頂くことが重要となる。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である非常勤講師との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、企業とタイアップして行うイベント等あらゆる機会を活用して、積極的に情報の提供を行っている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校長名 所在地 連絡先 学校の沿革 建学の理念 学校安全関連 保健対策
(2) 各学科等の教育	受入方法 定員 在校生数 カリキュラム 学年層 各学科教育目標 教科目標 シラバス 卒業進級判定基準 取得する称号
(3) 教職員	教職員数 学校組織図 教員の実績
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学連携教育 キャリア教育ロードマップ 業界研修 キャリアセンター 就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	設備紹介 海外実学研修 部活動 学友会活動 産業界・行政・地域との連携
(6) 学生の生活支援	中途退学防止支援 就職支援 健康支援 学費相談 進路変更支援 支援機関 支援制度 学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧 学費サポート(奨学金・教育ローン案内・学費分割納入制度 等)
(8) 学校の財務	法人財務資料
(9) 学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生支援 海外研修実績
(11) その他	社会・地域貢献(ボランティア活動)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) (広報誌等の刊行物) ・ その他( ) )

URL: <https://www.iken.ac.jp/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 スポーツ科学科 スポーツトレーナーコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			英会話	国際化に対応できる日常英会話を身につけるとともに、グローバルな感性を養うことができる。	1前	30	2	○			○			○
2	○			コミュニケーションスキル	対人援助職として必要なコミュニケーションを行うことができる。	1前	30	2	○			○			○
3	○			コンピュータ	ビジネス能力の一つとして、Microsoft officeの基礎技術を修得することができる。	1後	30	2		○		○			○
4		○		就職試験対策講座	就職活動で必要となるスキルとマナーを身につけ、就職活動に活かすことができる。	2前	30	2	○			○			○
5	○			機能的解剖学	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、運動に関わる身体構造や機能の説明をすることができる。	1前	30	2	○			○			○
6	○			機能的解剖学2	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、運動に関わる身体構造や機能の説明をすることができる。	1後	30	2	○			○			○
7	○			スポーツ生理学	運動によって生じる体の変化や適応状態について基礎的な知識を持ち、教育によって起こる身体的機能変化を理解することができる。	1前	30	2	○			○			○
8	○			スポーツ生理学2	運動によって生じる体の変化や適応状態について基礎的な知識を持ち、教育によって起こる身体的機能変化を理解することができる。	1後	30	2	○			○			○
9	○			発育発達	発達段階に応じた運動指導を学び、指導を行うことができる。	1後	30	2	○			○			○
10	○			健康管理概論	健康づくりや疾病予防の基礎的な知識の考え方を理解し、年代層に応じた健康指導を説明することができる。	2前	30	2	○			○			○
11	○			ボディケア	ケアの基本的なテクニックを学び、ボディケアを身につけ実践することができる。	1前	30	2		○		○			○
12	○			スポーツ障害	運動によって生じる整形外科的障害を理解し、目的に応じたテーピングを実践することができる。	1前	30	2		○		○			○
13	○			スポーツ医学	スポーツ障害にもならず、内科的疾病を有する人々のスポーツ医学や薬物の基礎知識を理解し、障害予防でのリハビリテーション、コンディショニングを修得することができる。	1後	30	2	○			○			○
14	○			スポーツ心理学	運動指導する際に心理学に関する科学的な専門知識を身につけ、指導に活かすことができる。	1前	30	2	○			○			○
15	○			体力測定法	体力の構成概念に基づいた各要素の知識を深めると共に、それぞれの正しい体力測定法を理解し、説明することができる。	1前	30	2		○		○			○
16	○			スポーツ栄養学	一般人の健康維持のための栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を説明することができる。	1前	30	2	○			○			○
17	○			スポーツ栄養学2	一般人の健康維持のための栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を説明することができる。	1後	30	2	○			○			○
18	○			スポーツ社会学	スポーツの歴史を学び、スポーツが社会へ及ぼす影響について、読み解く力を身につけまとめることができる。	1後	30	2	○			○			○

19	○		プログラムデザイン	対象者別のトレーニングプログラムの作成方法を学び、作成することができる。	1 後	30	2	○			○			○
20	○		スポーツバイオメカニクス	スポーツや日常生活にある動作を説明でき、スポーツ動作改善や障害の予防と関連付けることができる。	2 前	30	2	○			○			○
21	○		スポーツプログラミング	トレーニングの原則と効果、ウォーミングアップ、クーリングダウン、ストレッチの理論を説明することができる。	2 前	30	2	○			○			○
22	○		コーチング論	運動指導に必要な指導法や、コーチングにおける知識を学ぶと同時に、具体例を提示し実用的なコーチングスキルを身につけ、まとめることができる。	2 前	30	2	○			○			○
23	○		コンディショニング	身体の調整を行うための技術を身につけ、実際に身体調整をすることができる。	1 前	30	2		○		○			○
24	○		フィットネスエクササイズ	エアロビックな運動の特性を理解し、正しいステップ・筋コンディショニングの技術を身につけることができる。	1 前	30	2		○		○			○
25	○		レジスタンス	トレーニング指導をするうえで必要な知識を学び、目的に応じたトレーニングの指導をすることができる。	1 前	30	2		○		○			○
26	○		レジスタンス2	トレーニング指導をするうえで必要な知識を学び、目的に応じたトレーニングの指導をすることができる。	1 後	30	2		○		○			○
27	○		トレーニング科学	各種トレーニングの基礎知識、指導方法を学び、トレーニング指導をすることができる。	2 前	30	2	○			○			○
28	○		水中運動指導法	水の特性を学び、対象者に応じた水中運動の指導法を学ぶとともに水泳の基本動作を指導することができる。	1 前	15	1		○		○	○	○	○
29	○		進路指導	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	1 前	30	2	○			○			○
30	○		進路指導2	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	1 後	30	2	○			○			○
31	○		進路指導3	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	2 前	30	2	○			○			○
32	○		進路指導4	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	2 後	30	2	○			○			○
33	○		ゼミ	現場活動を通して求められるスキルやマインドを身につけるとともに、活動で起こる問題について討論を行い、現場力を身につけることができる。	2 前	30	2		○		○	○	○	○
34	○		ゼミ2	現場活動を通して求められるスキルやマインドを身につけるとともに、活動で起こる問題について討論を行い、現場力を身につけることができる。	2 後	30	2		○		○	○	○	○
35	○		進級制作	ゼミ活動を通して研究した成果についてまとめ、発表することができる。	2 前	30	2		○		○			○
36	○		卒業制作	ゼミ活動を通して研究した成果についてまとめ、発表することができる。	2 後	30	2		○		○			○
37		○	業界研修	学習した知識・技術を実践で使い、実践力や社会人基礎力を身につけることができる。	1 後	60	2				○		○	○
38	○		インターンシップ	インターンシップを通して職業観を養い、就職活動に活かすことができる。	2 前	60	2				○	○	○	○
39	○		専門実技演習	専門的な実習を通し、より専門性の高い指導や説明をすることができる。	2 前	30	2		○		○			○

40	○	○	○	専門科目	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 前	30	2	○	△	○	○						
41	○	○	○	専門科目2	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 前	30	2	○	△	○	○						
42	○	○	○	専門科目3	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 後	30	2	○	△	○	○						
43	○	○	○	専門科目4	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 後	30	2	○	△	○	○						
44	○	○	○	イベント・ボランティア活動	学内外で行われる様々なイベントやボランティア活動を通してリーダーシップ、フォローアップを体得することができる。	1 通・2 通	60	2			○	○	○	○				
45	○	○	○	海外実学研修	海外の歴史や文化に触れ、国際的な感性を養う。また、施設の見学を通して最先端の技術を学び、学んできたことへの理解を深めることができる。	1 後	時数による					○	○	○				
46	○	○	○	特別講義	業界で活躍している特別講師を招き、最新の話題についての講義を受け、理解を深めることができる。	1 通・2 通	4回で1単位			○			○					○
47	○	○	○	健康運動実践指導者基礎講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 前	30	2	○			○						○
48	○	○	○	健康運動実践指導者筆記試験対策講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 後	30	2	○			○						○
49	○	○	○	健康運動実践指導者実技試験対策講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 後	30	2	○			○						○
50	○	○	○	アスリートフードマイスター	アスリートのパフォーマンスを最大化するための最適な食プログラムを学び、クライアントに合わせた食事指導をすることができる。	1 前	15	1	○			○						○
51	○	○	○	SAQインストラクター レベル1試験対策講座	スピードシステムや解剖学的な視点から知識や動作を獲得し、コーチング視点を身につけることができる。	1 前	30	2	○			○						○
52	○	○	○	幼児体育指導者	子どもに身体を動かす楽しさや素晴らしさを伝えることができる。理論・指導手順・手本・補助を正しく学び、自信を持って指導できるスキルを身につけることができる。	1 通・2 通	15	1	○			○						○
53	○	○	○	FTPマットピラティス受験対策講座	身体の内側に意識を集中させ、全身をバランスよく動かしながら、身体の筋肉を鍛えゆがみのない柔軟性のあるしなやかな身体を身につけ、指導することができる。	2 前	30	2	○			○						○
54	○	○	○	ADI筆記試験対策講座	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2	○			○						○
55	○	○	○	ADI実技試験対策講座	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2	○			○						○
56	○	○	○	スキルアップ	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2	○			○						○
57	○	○	○	トレーニング指導者基礎講座	科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を修得し、スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導ができるようになる。	2 前	30	2	○			○						○
58	○	○	○	トレーニング指導者受験対策講座	科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を修得し、スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導ができるようになる。	2 後	30	2	○			○						○
59	○	○	○	スポーツシューフィッター	足の機能解剖や疾患の評価、治療に関する知識や形態観察とサイジング技術を修得。目的に合った正しいシューズ選びとインソール選択のアドバイスができるようになる。	1 後	15	1	○			○						○
60	○	○	○	AT受験対策講座	専門的な医学知識を有し、競技者の健康管理、スポーツ障害・外傷の予防、救急処置、アスレティックリハビリテーション及び体力トレーニング、コンディショニングなどができるようになる。	1 後	30	2	○			○						○



82	○	スクールトレーナー対策実技	スクールトレーナー実習のトレーニング計画案や実習マナーを身につけるとともに、スクールトレーナー実習に活かすことができる。	1 後	30	2	○	○	○				
83	○	スクールトレーナー実習	出身中学校や出身高校の部活動にトレーナーとして参加し、指導力や社会人基礎力を身につけることができる。	1 後	120	4		○	○	○			
84	○	機能解剖学演習	解剖学的特性を理解し、目的に応じた適切な運動プログラムを提案することができる。	2 前	30	2	○	○					
85	○	対象者別運動指導	解剖学的特性を理解し、目的に応じた適切な運動プログラムを提案することができる。	2 前	30	2	○	○					
86	○	トレーニング演習2	対象者を考慮したトレーニング計画を学び、対象者に応じた筋力トレーニングの指導ができる。	2 前	30	2	○	○					
87	○	チーム指導法	チームに適したトレーニングメニュー作成から指導方法を学び、チーム全体のコンディショニングを整えることができる。	2 前	30	2	○	○					
88	○	リコンディショニング	スポーツ障害予防として、選手のコンディショニングに関わる様々な技術を学ぶことができる。	2 前	30	2	○	○					
89	○	評価分析	クライアントの特徴について評価方法を学び、静的アライメントおよび動作を評価することができる。	2 前	30	2	○	○					
90	○	パーソナル指導法	パーソナル指導の流れやトレーニングメニューの組み立てを、実際の症例をもとに学び、クライアントに合わせた指導ができる。	2 前	30	2	○	○					
91	○	パーソナルセッション	身体機能改善を目的とし、クライアントの現状把握から修正方法、トレーニングと一連の指導法を学び、技術を身につけることができる。	2 前	30	2	○	○					
92	○	モーションパルペーション	脊柱と四肢の関節に、正常な関節運動があるかどうか調べる検査方法を身につけることができる。	2 前	30	2	○	○					
93	○	テクニック	カイロプラクティックで用いる様々なテクニックを修得することができる。	2 前	30	2	○	○					
94	○	ファンクショナルトレーニング	身体の構造を理解するとともに身体機能を高めるトレーニング方法を学び、指導できるようになる。	2 前	30	2	○	○					
95	○	トレーニング分析	トレーニング指導者としての知識はもちろん様々なデータを活用し、データに基づき専門性を活かした指導ができる。	2 前	30	2	○	○					
96	○	トレーニング総論	「トレーニング」「休養」「栄養」について理解し、対象者に応じた適切な計画を立てることができる。	2 後	30	2	○	○					
97	○	パーソナル指導法2	パーソナル指導の流れやトレーニングメニューの組み立てを、実際の症例をもとに学び、クライアントに合わせた指導ができる。	2 後	30	2	○	○					
98	○	パーソナルセッション2	身体機能改善を目的とし、クライアントの現状把握から修正方法、トレーニングと一連の指導法を学び、実践することができる。	2 後	30	2	○	○					
99	○	モーションパルペーション2	脊柱と四肢の関節に、正常な関節運動があるかどうか調べる検査方法を身につけることができる。	2 後	30	2	○	○					
100	○	テクニック2	カイロプラクティックで用いる様々なテクニックを修得することができる。	2 後	30	2	○	○					
合計					100	科目	193 単位(単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件	当該学年において、履修すべき科目のうち、履修を認定されない科目(不合格)が1科目以上あれば卒業できない。また、履修すべき科目のいずれかについて、出席回数総授業回数の3分の2未満の者は卒業できない。	1学年の学期区分	2期
履修方法	講義・演習・実技・実習のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。選択必修科目と自由選択科目を履修し、各科目66.7%以上の出席し試験等による60点以上の評定で単位取得する。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																													
福岡医健・スポーツ専門学校		平成14年4月1日		古谷野 潔		〒 812-0032 (住所) 福岡県福岡市博多区石城町7番30号 (電話) 092-262-2119																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																													
学校法人 滋慶学園		昭和58年12月23日		浮舟 邦彦		〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311																													
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ科学科 (スポーツインストラクターコース)	平成16(2004)年度	-	平成26(2014)年度																														
学科の目的	健康増進施設や公共施設でスポーツの楽しさや運動の重要性を伝えるとともに、子どもから高齢者まで幅広い対象者に安全な運動プログラム作成及び指導ができる運動指導者を目標とする。また、身体的特徴やライフスタイルに寄り添うことのできる指導者であり、更に複数の参加者に対するグループレッスン指導を強みとし、卒業後に即戦力として活躍できる人材養成を目指す。																																		
学科の特徴 (主な教育内容、取得可能な資格等)	<主な教育内容> スポーツ業界から求められる即戦力を養うため、産学連携教育を柱として人材育成を行い、目標とする資格取得を目指す。 <取得可能な資格> 健康運動実践指導者、FTPマツピラティスインストラクター、コーチングアシスタント、パーソナルトレーナー、健康予防管理専門士、幼児体育指導者2級、トレーニング指導者、ベーシックインストラクター 他																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,700 単位時間 単位	1,365 単位時間 単位	1,140 単位時間 単位	180 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																															
160 人の内数	8 人	0 人	0 %	0 %																															
就職等の状況	■卒業者数(C) : 0 人 ■就職希望者数(D) : 0 人 ■就職者数(E) : 0 人 ■地元就職者数(F) : 0 人 ■就職率(E/D) : - % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : - % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : - % ■進学者数 : 0 人 ■その他 :  (令和 5 年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) <対象者なし>																																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL:																																		
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.iken.ac.jp/course/sports-science/">https://www.iken.ac.jp/course/sports-science/</a>																																		
企業等と連携した実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定) <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,685 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>30 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>765 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>30 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> (B: 単位数による算定) <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>							総授業時数	2,685 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	30 単位時間	うち必修授業時数	765 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	30 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	2,685 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	30 単位時間																																		
うち必修授業時数	765 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	30 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総単位数	単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																		
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																		
うち必修単位数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>3 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>2 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5 人</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td> <td>4 人</td> </tr> </table>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人	計	5 人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	4 人														
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人																																		
計	5 人																																		
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	4 人																																		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

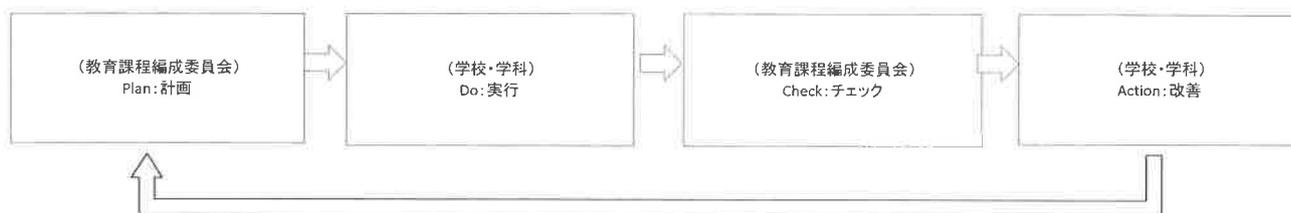
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体の役職員及び実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業の役職員が参画する教育課程編成委員会を年2回実施し、業界の動向や変化、それに伴うニーズや必要な人材像を把握すると共に、実施している授業やカリキュラム等を各委員に検証してもらいアドバイスや意見を頂く。また、教員による実習先訪問や就職担当による企業訪問を通して更なる情報収集を図る。それらを十分に生かしつつ、カリキュラムや授業方法の改善、授業科目の開設等を図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程の編成は、理事会の下に設置された教育課程編成委員会において討議した内容を十分に考慮したうえで、学科会議において編成を行うものとし、委員会の適切な運営は理事会が担保することになっている。また、教員組織規則において、「委員会の審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施する教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従って委員会を運営する。(以下図により、編成意思決定の過程を示す)



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
前田 弘	公益財団法人 日本サッカー協会 医学委員会委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
安積 研二	AcroBats株式会社 取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
土本 佳正	福岡医健・スポーツ専門学校 事務局長・スポーツ科学科 学科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
古谷野 潔	福岡医健・スポーツ専門学校 学校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
河口 青児	福岡医健・スポーツ専門学校 副校長・教務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
松原 敏昭	福岡医健・スポーツ専門学校 教務事務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

教育課程編成委員会は年2回開催し、第1回目を毎年5月、第2回目を翌年1月に実施している。今年度開催(予定)日時は以下の通り。また、委員会欠席委員に対しては個別に意見聴取を行うなど、必要に応じて、適宜適切に分科会等を開催する場合がある。

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月17日 15:30～17:00

第2回 令和7年1月24日 13:00～15:00 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

専門学校の役割は「各種資格の合格率をあげること」「一つでも多くの資格を取得させること」「希望する仕事・産業界に就職させること」などの意見を多くの委員から頂いた。

特にAT資格は、医療系国家資格ではないが医療系国家資格よりも難しく価値は高いので、AT資格の合格率を上げることが重要との意見を頂いた。そこで、通常授業以外の空いた時間に補講として過去問題をひたすら解く機会を設けると共に、AT理論試験突破に向けた合宿を計画している。また、「やる気スイッチ」「現場での楽しさ」などモチベーションを高めていくことにも努めている。

また、良い就職を勝ち取るためには実践力の強化が重要である旨のアドバイスを頂いたので、現場経験の積み重ねや実習の強化として、ソフトバンクホークスでの実習、女子サッカー福岡J・アンクラスやアメリカンフットボール福岡SUNSでの活動等年間通したゼミ活動の展開などの改善を図っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、「学校と業界が協力をして、業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学共同教育」を開校以来実践してきた。即戦力としての職業人教育を行うため、業界と連携して専門知識・技術、人間力を有した人材育成を行っている。このため、特に実習・演習科目に於いては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施及び達成度評価を行っている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。  
更に、業界研修・臨床実習等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。実習実施前の協議を徹底すると共に、教員による実習巡回を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
体力測定法	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	体力の構成概念に基づいた各要素の知識を深めると共に、それぞれの正しい体力測定法を理解し、説明することができる。	株式会社ライコ 計1施設
業界研修	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	学習した知識・技術を実践で使い、実践力や社会人基礎力を身につけることができる。	加野病院、スポーツクラブNAS博多、ゴールドジム博多リバレイン、セントラルウェルネス クラブ24野間大池、スポーツクラブエスタクオリア千早+24 他 計10施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研究会や講習会に専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:健康運動実践指導者養成校養成講座専任教員研修会  
主 催:公益財団法人 健康・体力づくり事業財団  
実施日:令和6年3月13日  
参加者:スポーツ科学科専任教員2名  
内 容:健康運動実践指導者資格に関わる実務内容(テキスト改訂/評価総括/R6年認定試験実施計画など)について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:キャリア教育インストラクター研修  
主 催:滋慶教育科学研究所  
実施日:令和6年1月19日  
参加者:スポーツ科学科専任教員1名  
内 容:キャリア教育を実践するための指導法や評価法について

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:第13回日本アスレティックトレーニング学会  
主 催:日本アスレティックトレーニング学会  
実施日:令和6年9月14・15日  
参加者:スポーツ科学科専任教員1名  
内 容:アスレティックトレーニングを支える経験・研究・教育の連携

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:2024年度 FDマイクロレベル研修 I  
主 催:滋慶教育科学研究所  
実施日:令和6年4月12日  
参加者:スポーツ科学科専任教員2名  
内 容:学生変化に沿った教授法の基本(マインドとスキル)を習得

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、卒業生、保護者、地域住民、高等学校、企業により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価して、様々な角度からアドバイスや支援を行うことを通して、学校運営の改善に活用することを方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

運営部長を始め、学校長、事務局長、教務部長、学科長等で共有し、全スタッフに周知して、多岐に渡る学校運営の改善に努めている。特に、日々の学校運営の中で直ちに改善・対応が可能なことは、学校長の指導の下、学校全体に係る事案は事務局長・教務部長が中心となり速やかに改善に取り組み、学科に係ることは学科長が中心となり速やかに改善を図っている。また、改善に新たな予算確保が必要な案件は事務局長が中心となって次年度に向けて予算組を行い、改善を図っている。加えて、学則変更等が必要な案件は、学校長の指導の下、教務部長が中心となって学則変更手続きを行いながら改善を図っている。

学校関係者評価委員会を開催し、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した昨年度の学校自己点検報告書について、当校に關係の深い13名の学校関係者評価委員に評価していただき、各項目について概ね「優れている」との評価を頂いた。また「入学定員の充足」「中途退学者の低減」「地域との交流を更に深める」など多くのご意見を頂いた。

学校のリーダー会議、学科会議、全体会議などでこれらの意見を共有し、検討・環境整備に取り組んでいきます。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
村田 栄治	村田整骨院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(柔道整復科)
要 信義	要鍼灸院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(鍼灸科)
橋本 修二	社会医療法人財団池友会 福岡和白病院 医療連携室 主幹	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(救急救命公務員科)
福田 智	医療法人 セと山荘クリニック 統括部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(理学療法科)
丸田 淳司	医療法人誠和会 牟田病院 医療部門科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(作業療法科)
案西 浩平	医療法人社団 桜香 あんざい歯科クリニック 理事長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(歯科衛生士科)
平野 千恵美	医療法人相生会 宮田病院 看護師長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(看護科)
安積 研二	AcroBats株式会社 取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(スポーツ科学科)
中西 祐介	株式会社サンドラッグ 人事部採用課主任	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(薬業科)
谷口 貴隆	スポーツ科学科 卒業生	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生代表
富崎 尚美	在校生(鍼灸科3年)保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者代表
清輔 正孝	福岡県立香椎高等学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高等学校関係者
戒崎 淳一	福岡市博多区大浜公民館 館長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://www.iken.ac.jp/school/public-info/>

公表時期: 令和6年5月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年定める事業計画の実行方針で提起された目標(カリキュラムのイノベーション、中途退学率の低減、就職100%、国家試験合格率100%等)を具現化するために、企業等からヒアリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成している。その為にも、学校の方針や考え方に加え、様々な詳細情報を十分に理解して頂いた上で、意見やアドバイス、支援を頂くことが重要となる。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である非常勤講師との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、企業とタイアップして行イベント等あらゆる機会を活用して、積極的に情報の提供を行っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校長名 所在地 連絡先 学校の沿革 建学の理念 学校安全関連 保健対策
(2)各学科等の教育	入学方法 定員 在校生数 カリキュラム 学年暦 各学科教育目標 教科目標 シラバス 卒業進級判定基準 取得する称号
(3)教職員	教職員数 学校組織図 教員の実績
(4)キャリア教育・実践的職業教育	産学連携教育 キャリア教育ロードマップ 業界研修 キャリアセンター 就職指導
(5)様々な教育活動・教育環境	設備紹介 海外実学研修 部活動 学友会活動 産業界・行政・地域との連携
(6)学生の生活支援	中途退学防止支援 就職支援 健康支援 学費相談 進路変更支援 支援機関 支援制度 学生寮
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧 学費サポート(奨学金・教育ローン案内・学費分割納入制度等)
(8)学校の財務	法人財務資料
(9)学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価
(10)国際連携の状況	留学生支援 海外研修実績
(11)その他	社会・地域貢献(ボランティア活動)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物、その他( )

URL: <https://www.iken.ac.jp/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 スポーツ科学科 スポーツインストラクターコース)																
分類	必 修			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場 所		教 員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			英会話	国際化に対応できる日常英会話を身につけるとともに、グローバルな感性を養うことができる。	1前	30	2	○			○				○
2	○			コミュニケーションスキル	対人援助職として必要なコミュニケーションを行うことができる。	1前	30	2	○			○				○
3	○			コンピュータ	ビジネス能力の一つとして、Microsoft officeの基礎技術を修得することができる。	1後	30	2		○		○				○
4		○		就職試験対策講座	就職活動で必要となるスキルとマナーを身につけ、就職活動に活かすことができる。	2前	30	2	○			○				○
5	○			機能的解剖学	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、運動に関わる身体構造や機能の説明をすることができる。	1前	30	2	○			○				○
6	○			機能的解剖学2	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、運動に関わる身体構造や機能の説明をすることができる。	1後	30	2	○			○				○
7	○			スポーツ生理学	運動によって生じる体の変化や適応状態について基礎的な知識を持ち、教育によって起こる身体的機能変化を理解することができる。	1前	30	2	○			○				○
8	○			スポーツ生理学2	運動によって生じる体の変化や適応状態について基礎的な知識を持ち、教育によって起こる身体的機能変化を理解することができる。	1後	30	2	○			○				○
9	○			発育発達	発達段階に応じた運動指導を学び、指導を行うことができる。	1後	30	2	○			○				○
10		○		健康管理概論	健康づくりや疾病予防の基礎的な知識の考え方を理解し、年代層に応じた健康指導を説明することができる。	2前	30	2	○			○				○
11	○			ボディケア	ケアの基本的なテクニックを学び、ボディケアを身につけ実践することができる。	1前	30	2		○		○				○
12	○			スポーツ障害	運動によって生じる整形外科的障害を理解し、目的に応じたテーピングを実践することができる。	1前	30	2		○		○			○	
13	○			スポーツ医学	スポーツ障害にもならず、内科的疾病を有する人々のスポーツ医学や薬物の基礎知識を理解し、障害予防でのリハビリテーション、コンディショニングを修得することができる。	1後	30	2	○			○				○
14	○			スポーツ心理学	運動指導する際に心理学に関する科学的な専門知識を身につけ、指導に活かすことができる。	1前	30	2	○			○				○
15	○			体力測定法	体力の構成概念に基づいた各要素の知識を深めると共に、それぞれの正しい体力測定法を理解し、説明することができる。	1前	30	2		○		○				○ ○
16	○			スポーツ栄養学	一般人の健康維持のための栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を説明することができる。	1前	30	2	○			○				○
17	○			スポーツ栄養学2	一般人の健康維持のための栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を説明することができる。	1後	30	2	○			○				○
18	○			スポーツ社会学	スポーツの歴史を学び、スポーツが社会へ及ぼす影響について、読み解く力を身につけまとめることができる。	1後	30	2	○			○				○

19	○		プログラムデザイン	対象者別のトレーニングプログラムの作成方法を学び、作成することができる。	1 後	30	2	○		○		○	
20	○		スポーツバイオメカニクス	スポーツや日常生活にある動作を説明でき、スポーツ動作改善や障害の予防と関連付けることができる。	2 前	30	2	○		○		○	
21	○		スポーツプログラミング	トレーニングの原則と効果、ウォーミングアップ、クーリングダウン、ストレッチの理論を説明することができる。	2 前	30	2	○		○		○	
22	○		コーチング論	運動指導に必要な指導法や、コーチングにおける知識を学ぶと同時に、具体例を提示し実用的なコーチングスキルを身につけ、まとめることができる。	2 前	30	2	○		○		○	
23	○		コンディショニング	身体の調整を行うための技術を身につけ、実際に身体調整をすることができる。	1 前	30	2		○	○		○	
24	○		フィットネスエクササイズ	エアロビックな運動の特性を理解し、正しいステップ・筋コンディショニングの技術を身につけることができる。	1 前	30	2		○	○		○	
25	○		レジスタンス	トレーニング指導をするうえで必要な知識を学び、目的に応じたトレーニングの指導をすることができる。	1 前	30	2		○	○		○	
26	○		レジスタンス2	トレーニング指導をするうえで必要な知識を学び、目的に応じたトレーニングの指導をすることができる。	1 後	30	2		○	○		○	
27	○		トレーニング科学	各種トレーニングの基礎知識、指導方法を学び、トレーニング指導をすることができる。	2 前	30	2	○		○		○	
28	○		水中運動指導法	水の特性を学び、対象者に応じた水中運動の指導法を学ぶとともに水泳の基本動作を指導することができる。	1 前	15	1		○		○	○	○
29	○		進路指導	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	1 前	30	2	○		○		○	
30	○		進路指導2	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	1 後	30	2	○		○		○	
31	○		進路指導3	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	2 前	30	2	○		○		○	
32	○		進路指導4	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	2 後	30	2	○		○		○	
33	○		ゼミ	現場活動を通して求められるスキルやマインドを身につけるとともに、活動で起こる問題について討論を行い、現場力を身につけることができる。	2 前	30	2		○	○	○	○	○
34	○		ゼミ2	現場活動を通して求められるスキルやマインドを身につけるとともに、活動で起こる問題について討論を行い、現場力を身につけることができる。	2 後	30	2		○	○	○	○	○
35	○		進級制作	ゼミ活動を通して研究した成果についてまとめ、発表することができる。	2 前	30	2		○	○		○	○
36	○		卒業制作	ゼミ活動を通して研究した成果についてまとめ、発表することができる。	2 後	30	2		○	○		○	○
37		○	業界研修	学習した知識・技術を実践で使い、実践力や社会人基礎力を身につけることができる。	1 後	60	2			○	○	○	○
38	○		インターンシップ	インターンシップを通して職業観を養い、就職活動に活かすことができる。	2 前	60	2			○	○	○	○
39	○		専門実技演習	専門的な実習を通し、より専門性の高い指導や説明をすることができる。	2 前	30	2		○	○		○	







職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
福岡医健・スポーツ専門学校		平成14年4月1日	古谷野 潔	〒 812-0032 (住所) 福岡県福岡市博多区石城町7番30号 (電話) 092-262-2119			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人 滋慶学園		昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311			
分野	認定課程名	認定学科名	専任士認定年度	高度専任士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ科学科 (ボディメイキングトレーナーコース)	平成16(2004)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	「職業人教育を通して社会に貢献」をミッションとし、クライアントの要望に応えることのできるパーソナルトレーナーとして必要な解剖学から栄養学などの幅広い理論に基づいた適切な指導や安全な運動プログラムなどの専門知識や技術の提供だけでなく、怪我予防としてアライメントや身体機能の高めるコンディショニング方法やクライアントと共有できるような人間性が身につけられる人材を育成する。						
学科の特徴 (主な教育内容、取得可能な資格等)	<主な教育内容> スポーツ業界から求められる即戦力を養うため、産学連携教育を柱として人材育成を行い、目標とする資格取得を目指す。 <取得可能な資格> 健康運動実践指導者、NSCA-CPT、FTPマットピラティスイストラクター、トレーニング指導者 他						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2	昼間	※単位数時間、単位いずれかに記入 1,700 単位数時間	1,365 単位数時間	1,110 単位数時間	180 単位数時間	0 単位数時間	0 単位数時間
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
160 人の内数	9 人	0 人	0 %	0 %			
就職等の状況	■卒業生数(C)		10	人			
	■就職希望者数(D)		9	人			
	■就職者数(E)		9	人			
	■地元就職者数(F)		7	人			
	■就職率(E/D)		100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		78	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		90	%			
	■進学者数		1	人			
	■その他						
	(令和 5 年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)						
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生)		スポーツクラブ スポーツ施設 整骨院					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無				
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.iken.ac.jp/course/sports-science/">https://www.iken.ac.jp/course/sports-science/</a>						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位数による算定)						
	総授業時数		2,655 単位数時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		60 単位数時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数		30 単位数時間					
うち必修授業時数		1,275 単位数時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位数時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		30 単位数時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位数時間					
(B: 単位数による算定)							
総単位数		単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位					
うち企業等と連携した演習の単位数		単位					
うち必修単位数		単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人			
	計		5 人				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4 人					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

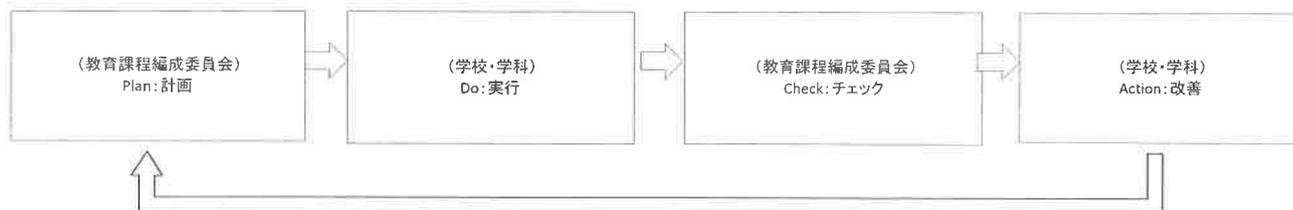
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体の役職員及び実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業の役職員が参画する教育課程編成委員会を年2回実施し、業界の動向や変化、それに伴うニーズや必要な人材像を把握すると共に、実施している授業やカリキュラム等を各委員に検証してもらいアドバイスや意見を頂く。また、教員による実習先訪問や就職担当による企業訪問を通して更なる情報収集を図る。それらを十分に生かしつつ、カリキュラムや授業方法の改善、授業科目の開設等を図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程の編成は、理事会の下に設置された教育課程編成委員会において討議した内容を十分に考慮したうえで、学科会議において編成を行うものとし、委員会の適切な運営は理事会が担保することになっている。また、教員組織規則において、「委員会の審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施する教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従って委員会を運営する。(以下図により、編成意思決定の過程を示す)



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
前田 弘	公益財団法人 日本サッカー協会 医学委員会委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
安積 研二	AcroBats株式会社 取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
土本 佳正	福岡医健・スポーツ専門学校 事務局長・スポーツ科学科 学科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
古谷野 潔	福岡医健・スポーツ専門学校 学校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
河口 青児	福岡医健・スポーツ専門学校 副校長・教務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
松原 敏昭	福岡医健・スポーツ専門学校 教務事務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

教育課程編成委員会は年2回開催し、第1回目を毎年5月、第2回目を翌年1月に実施している。今年度開催(予定)日時は以下の通り。また、委員会欠席委員に対しては個別に意見聴取を行うなど、必要に応じて、適宜適切に分科会等を開催する場合がある。

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月17日 15:30～17:00

第2回 令和7年1月24日 13:00～15:00 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

専門学校の役割は「各種資格の合格率をあげること」「一つでも多くの資格を取得させること」「希望する仕事・産業界に就職させること」などの意見を多くの委員から頂いた。

特にAT資格は、医療系国家資格ではないが医療系国家資格よりも難しく価値は高いので、AT資格の合格率を上げることが重要との意見を頂いた。そこで、通常授業以外の空いた時間に補講として過去問題をひたすら解く機会を設けると共に、AT理論試験突破に向けた合宿を計画している。また、「やる気スイッチ」・「現場での楽しさ」などモチベーションを高めていくことにも努めている。

また、良い就職を勝ち取る為には実践力の強化が重要である旨のアドバイスを頂いたので、現場経験の積み重ねや実習の強化として、ソフトバンクホークスでの実習、女子サッカー福岡J・アンクラスやアメリカンフットボール福岡SUNSでの活動等年間通したゼミ活動の展開などの改善を図っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、「学校と業界が協力をして、業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学共同教育」を開校以来実践してきた。即戦力としての職業人教育を行うため、業界と連携して専門知識・技術、人間力を有した人材育成を行っている。このため、特に実習・演習科目に於いては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施及び達成度評価を行っている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。

更に、業界研修・臨床実習等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。実習実施前の協議を徹底すると共に、教員による実習巡回を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
体力測定法	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	体力の構成概念に基づいた各要素の知識を深めると共に、それぞれの正しい体力測定法を理解し、説明することができる。	株式会社ライコ 計1施設
業界研修	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	学習した知識・技術を実践で使い、実践力や社会人基礎力を身につけることができる。	加野病院、スポーツクラブNAS博多、ゴールドジム博多リバレイン、セントラルウェルネス クラブ24野間大池、スポーツクラブエスタクオリア千早+24 他 計10施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講習会に専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会  
主 催:公益財団法人 健康・体力づくり事業財団  
実施日:令和6年3月13日  
参加者:スポーツ科学科専任教員2名  
内 容:健康運動実践指導者資格に関わる実務内容(テキスト改訂/評価総括/R6年認定試験実施計画など)について

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:キャリア教育インストラクター研修  
主 催:滋慶教育科学研究所  
実施日:令和6年1月19日  
参加者:スポーツ科学科専任教員1名  
内 容:キャリア教育を実践するための指導法や評価法について

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:第13回日本アスレティックトレーニング学会  
主 催:日本アスレティックトレーニング学会  
実施日:令和6年9月14・15日  
参加者:スポーツ科学科専任教員1名  
内 容:アスレティックトレーニングを支える経験・研究・教育の連携

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:2024年度 FDマイクロレベル研修 I  
主 催:滋慶教育科学研究所  
実施日:令和6年4月12日  
参加者:スポーツ科学科専任教員2名  
内 容:学生変化に沿った教授法の基本(マインドとスキル)を習得

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、卒業生、保護者、地域住民、高等学校、企業により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価して、様々な角度からアドバイスや支援を行うことを通して、学校運営の改善に活用することを方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

運営部長を始め、学校長、事務局長、教務部長、学科長等で共有し、全スタッフに周知して、多岐に渡る学校運営の改善に努めている。特に、日々の学校運営の中で直ちに改善・対応が可能なことは、学校長の指導の下、学校全体に係る事案は事務局長・教務部長が中心となり速やかに改善に取り組み、学科に係ることは学科長が中心となり速やかに改善を図っている。また、改善に新たな予算確保が必要な案件は事務局長が中心となって次年度に向けて予算組を行い、改善を図っている。加えて、学則変更等が必要な案件は、学校長の指導の下、教務部長が中心となって学則変更手続きを行いながら改善を図っている。

学校関係者評価委員会を開催し、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した昨年度の学校自己点検報告書について、当校に關係の深い13名の学校関係者評価委員に評価していただき、各項目について概ね「優れている」との評価を頂いた。また「入学定員の充足」「中途退学者の低減」「地域との交流を更に深める」など多くのご意見を頂いた。

学校のリーダー会議、学科会議、全体会議などでこれらの意見を共有し、検討・環境整備に取り組んでいきます。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
村田 栄治	村田整骨院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(柔道整復科)
要 信義	要鍼灸院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(鍼灸科)
橋本 修二	社会医療法人財団池友会 福岡和白病院 医療連携室 主幹	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(救急救命公務員科)
福田 智	医療法人 せと山荘クリニック 統括部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(理学療法科)
丸田 淳司	医療法人誠和会 牟田病院 医療部門科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(作業療法科)
案西 浩平	医療法人社団 桜香 あんざい歯科クリニック 理事長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(歯科衛生士科)
平野 千恵美	医療法人相生会 宮田病院 看護師長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(看護科)
安積 研二	AcroBats株式会社 取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(スポーツ科学科)
中西 祐介	株式会社サンドラッグ 人事部採用課主任	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(薬業科)
谷口 貴隆	スポーツ科学科 卒業生	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生代表
富崎 尚美	在校生(鍼灸科3年)保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者代表
清輔 正孝	福岡県立香椎高等学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高等学校関係者
戒崎 淳一	福岡市博多区大浜公民館 館長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL : <https://www.iken.ac.jp/school/public-info/>

公表時期: 令和6年5月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年定める事業計画の実行方針で提起された目標(カリキュラムのイノベーション、中途退学率の低減、就職100%、国家試験合格率100%等)を具現化するために、企業等からヒアリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成している。その為にも、学校の方針や考え方に加え、様々な詳細情報を十分に理解して頂いた上で、意見やアドバイスを、支援を頂くことが重要となる。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である非常勤講師との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、企業とタイアップして行イベント等あらゆる機会を活用して、積極的に情報の提供を行っている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校長名 所在地 連絡先 学校の沿革 建学の理念 学校安全関連 保健対策
(2) 各学科等の教育	受入方法 定員 在校生数 カリキュラム 学年暦 各学科教育目標 教科目標 シラバス 卒業進級判定基準 取得する称号
(3) 教職員	教職員数 学校組織図 教員の実績
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学連携教育 キャリア教育ロードマップ 業界研修 キャリアセンター 就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	設備紹介 海外実学研修 部活動 学友会活動 産業界・行政・地域との連携
(6) 学生の生活支援	中途退学防止支援 就職支援 健康支援 学費相談 進路変更支援 支援機関 支援制度 学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧 学費サポート(奨学金・教育ローン案内・学費分割納入制度 等)
(8) 学校の財務	法人財務資料
(9) 学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生支援 海外研修実績
(11) その他	社会・地域貢献(ボランティア活動)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) (広報誌等の刊行物) ・ その他( ) )

URL: <https://www.iken.ac.jp/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 スポーツ学科 ボディメイキングトレーナーコース)																
分類	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			英会話	国際化に対応できる日常英会話を身につけるとともに、グローバルな感性を養うことができる。	1前	30	2	○			○				○
2	○			コミュニケーションスキル	対人援助職として必要なコミュニケーションを行うことができる。	1前	30	2	○			○				○
3	○			コンピュータ	ビジネス能力の一つとして、Microsoft officeの基礎技術を修得することができる。	1後	30	2		○		○				○
4		○		就職試験対策講座	就職活動で必要となるスキルとマナーを身につけ、就職活動に活かすことができる。	2前	30	2	○			○				○
5	○			機能的解剖学	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、運動に関わる身体構造や機能の説明をすることができる。	1前	30	2	○			○				○
6	○			機能的解剖学2	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、運動に関わる身体構造や機能の説明をすることができる。	1後	30	2	○			○				○
7	○			スポーツ生理学	運動によって生じる体の変化や適応状態について基礎的な知識を持ち、教育によって起こる身体的機能変化を理解することができる。	1前	30	2	○			○				○
8	○			スポーツ生理学2	運動によって生じる体の変化や適応状態について基礎的な知識を持ち、教育によって起こる身体的機能変化を理解することができる。	1後	30	2	○			○				○
9	○			発育発達	発達段階に応じた運動指導を学び、指導を行うことができる。	1後	30	2	○			○				○
10		○		健康管理概論	健康づくりや疾病予防の基礎的な知識の考え方を理解し、年代層に応じた健康指導を説明することができる。	2前	30	2	○			○				○
11	○			ボディケア	ケアの基本的なテクニックを学び、ボディケアを身につけ実践することができる。	1前	30	2		○		○				○
12	○			スポーツ障害	運動によって生じる整形外科的障害を理解し、目的に応じたテーピングを実践することができる。	1前	30	2		○		○			○	
13	○			スポーツ医学	スポーツ障害にもならず、内科的疾患を有する人々のスポーツ医学や薬物の基礎知識を理解し、障害予防でのリハビリテーション、コンディショニングを修得することができる。	1後	30	2	○			○				○
14	○			スポーツ心理学	運動指導する際に心理学に関する科学的な専門知識を身につけ、指導に活かすことができる。	1前	30	2	○			○				○
15	○			体力測定法	体力の構成概念に基づいた各要素の知識を深めると共に、それぞれの正しい体力測定法を理解し、説明することができる。	1前	30	2		○		○				○ ○
16	○			スポーツ栄養学	一般人の健康維持のための栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を説明することができる。	1前	30	2	○			○				○
17	○			スポーツ栄養学2	一般人の健康維持のための栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を説明することができる。	1後	30	2	○			○				○
18	○			スポーツ社会学	スポーツの歴史を学び、スポーツが社会へ及ぼす影響について、読み解く力を身につけまとめることができる。	1後	30	2	○			○				○

19	○		プログラムデザイン	対象者別のトレーニングプログラムの作成方法を学び、作成することができる。	1 後	30	2	○			○			○
20		○	スポーツバイオメカニクス	スポーツや日常生活にある動作を説明でき、スポーツ動作改善や障害の予防と関連付けることができる。	2 前	30	2	○			○			○
21		○	スポーツプログラミング	トレーニングの原則と効果、ウォーミングアップ、クーリングダウン、ストレッチの理論を説明することができる。	2 前	30	2	○			○			○
22		○	コーチング論	運動指導に必要な指導法や、コーチングにおける知識を学ぶと同時に、具体例を提示し実用的なコーチングスキルを身につけ、まとめることができる。	2 前	30	2	○			○			○
23	○		コンディショニング	身体の調整を行うための技術を身につけ、実際に身体調整をすることができる。	1 前	30	2		○		○			○
24	○		フィットネスエクササイズ	エアロビックな運動の特性を理解し、正しいステップ・筋コンディショニングの技術を身につけることができる。	1 前	30	2		○		○			○
25	○		レジスタンス	トレーニング指導をするうえで必要な知識を学び、目的に応じたトレーニングの指導をすることができる。	1 前	30	2		○		○			○
26	○		レジスタンス2	トレーニング指導をするうえで必要な知識を学び、目的に応じたトレーニングの指導をすることができる。	1 後	30	2		○		○			○
27		○	トレーニング科学	各種トレーニングの基礎知識、指導方法を学び、トレーニング指導をすることができる。	2 前	30	2	○			○			○
28	○		水中運動指導法	水の特性を学び、対象者に応じた水中運動の指導法を学ぶとともに水泳の基本動作を指導することができる。	1 前	15	1		○		○	○	○	○
29		○	進路指導	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	1 前	30	2	○			○			○
30		○	進路指導2	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	1 後	30	2	○			○			○
31		○	進路指導3	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	2 前	30	2	○			○			○
32		○	進路指導4	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	2 後	30	2	○			○			○
33	○		ゼミ	現場活動を通して求められるスキルやマインドを身につけるとともに、活動で起こる問題について討論を行い、現場力を身につけることができる。	2 前	30	2		○		○	○	○	○
34	○		ゼミ2	現場活動を通して求められるスキルやマインドを身につけるとともに、活動で起こる問題について討論を行い、現場力を身につけることができる。	2 後	30	2		○		○	○	○	○
35	○		進級制作	ゼミ活動を通して研究した成果についてまとめ、発表することができる。	2 前	30	2		○		○			○
36	○		卒業制作	ゼミ活動を通して研究した成果についてまとめ、発表することができる。	2 後	30	2		○		○			○
37		○	業界研修	学習した知識・技術を実践で使い、実践力や社会人基礎力を身につけることができる。	1 後	60	2				○		○	○
38		○	インターンシップ	インターンシップを通して職業観を養い、就職活動に活かすことができる。	2 前	60	2				○	○	○	○
39		○	専門実技演習	専門的な実習を通し、より専門性の高い指導や説明をすることができる。	2 前	30	2		○		○			○

40		○	専門科目	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 前	30	2	○	△	○	○							
41		○	専門科目2	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 前	30	2	○	△	○	○							
42		○	専門科目3	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 後	30	2	○	△	○	○							
43		○	専門科目4	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 後	30	2	○	△	○	○							
44		○	イベント・ボランティア活動	学内外で行われる様々なイベントやボランティア活動を通してリーダーシップ、フォローワーシップを体得することができる。	1 通・2 通	60	2			○	○	○	○					
45		○	海外実学研修	海外の歴史や文化に触れ、国際的な感性を養う。また、施設の見学を通して最先端の技術を学び、学んできたことへの理解を深めることができる。	1 後	時数による					○	○	○					
46		○	特別講義	業界で活躍している特別講師を招き、最新の話題についての講義を受け、理解を深めることができる。	1 通・2 通	4回で1単位			○		○						○	
47		○	健康運動実践指導者基礎講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 前	30	2	○			○						○	
48		○	健康運動実践指導者筆記試験対策講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 後	30	2	○			○						○	
49		○	健康運動実践指導者実技試験対策講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 後	30	2	○			○						○	
50		○	アスリートフードマイスター	アスリートのパフォーマンスを最大化するための最適な食プログラムを学び、クライアントに合わせた食事指導をすることができる。	1 前	15	1	○			○							○
51		○	SAQインストラクター レベル1試験対策講座	スピードシステムや解剖学的な視点から知識や動作を獲得し、コーチング視点を身につけることができる。	1 前	30	2	○			○							○
52		○	幼児体育指導者	子どもに身体を動かす楽しさや素晴らしさを伝えることができる。理論・指導手順・手本・補助を正しく学び、自信を持って指導できるスキルを身につけることができる。	1 通・2 通	15	1	○			○							○
53		○	FTPマットピラティス受験対策講座	身体の内側に意識を集中させ、全身をバランスよく動かしながら、身体の筋肉を鍛えゆがみのない柔軟性のあるしなやかな身体を身につけ、指導することができる。	2 前	30	2	○			○							○
54		○	ADI筆記試験対策講座	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2	○			○							○
55		○	ADI実技試験対策講座	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2	○			○							○
56		○	スキルアップ	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2	○			○							○
57		○	トレーニング指導者基礎講座	科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を修得し、スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導ができるようになる。	2 前	30	2	○			○							○
58		○	トレーニング指導者受験対策講座	科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を修得し、スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導ができるようになる。	2 後	30	2	○			○							○
59		○	スポーツシューフィッター	足の機能解剖や疾患の評価、治療に関する知識や形態観察とサイジング技術を修得。目的に合った正しいシューズ選びとインソール選択のアドバイスができるようになる。	1 後	15	1	○			○							○
60		○	AT受験対策講座	専門的な医学知識を有し、競技者の健康管理、スポーツ障害・外傷の予防、救急処置、アスレティックリハビリテーション及び体カトレーニング、コンディショニングなどができるようになる。	1 後	30	2	○			○							○





職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
福岡医療・スポーツ専門学校		平成14年4月1日		古谷野 潔		〒 812-0032 (住所) 福岡県福岡市博多区石城町7番30号 (電話) 092-262-2119			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 滋慶学園		昭和58年12月23日		浮舟 邦彦		〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ科学科 (トータルビューティークース)	平成16(2004)年度	-	平成26(2014)年度				
学科の目的	「職業人教育を通して社会に貢献」をミッションとし、知識・技術の提供だけでなく、解剖学から栄養学などの理論に基づいた安全な運動プログラムの計画や女性らしいしなやかなカラダづくりなど、一人ひとりに合った理想の身体に導くことができる指導ができるクライアントが望むパーソナルトレーナーを育成する。								
学科の特徴 (主な教育内容、取得可能な資格等)	<主な教育内容> スポーツ業界から求められる即戦力を養うため、産学連携教育を柱として人材育成を行い、目標とする資格取得を目指す。 <取得可能な資格> 健康運動実践指導者、FTPマットピラティスインストラクター 他								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入		1,700 単位数	1,395 単位数	1,110 単位数	180 単位数	0 単位数	0 単位数
				単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率				
160 人の内数	6 人	0 人		0 %	22 %				
就職等の状況	■卒業者数(C) : 1 人 ■就職希望者数(D) : 1 人 ■就職者数(E) : 1 人 ■地元就職者数(F) : 0 人 ■就職率(E/D) : 100 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 0 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100 % ■進学者数 : 0 人 ■その他 : (令和 5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) スポーツ施設								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL								
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.iken.ac.jp/course/sports-science/">https://www.iken.ac.jp/course/sports-science/</a>								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位数による算定)								
	総授業時数		2,685 単位数						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		60 単位数							
うち企業等と連携した演習の授業時数		30 単位数							
うち必修授業時数		1,305 単位数							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位数							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		30 単位数							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位数							
(B: 単位数による算定)									
総単位数		単位							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位							
うち企業等と連携した演習の単位数		単位							
うち必修単位数		単位							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位							
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位							
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位							
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0 人						
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3 人						
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人						
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人						
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		2 人						
	計		5 人						
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4 人							

1 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

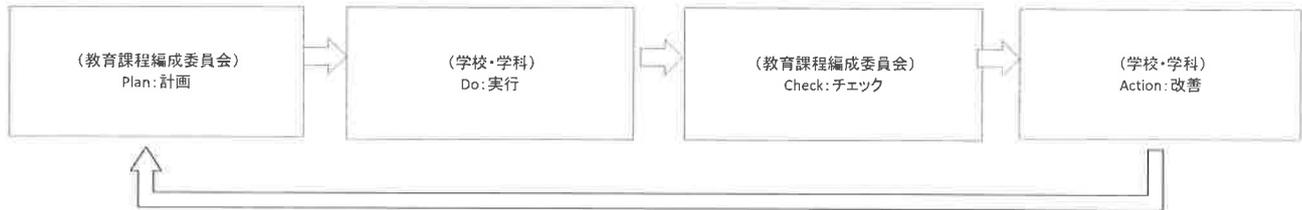
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体の役職員及び実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業の役職員が参画する教育課程編成委員会を年2回実施し、業界の動向や変化、それに伴うニーズや必要な人材像を把握すると共に、実施している授業やカリキュラム等を各委員に検証してもらいアドバイスや意見を頂く。また、教員による実習先訪問や就職担当による企業訪問を通して更なる情報収集を図る。それらを十分に生かしつつ、カリキュラムや授業方法の改善、授業科目の開設等を図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程の編成は、理事会の下に設置された教育課程編成委員会において討議した内容を十分に考慮したうえで、学科会議において編成を行うものとし、委員会の適切な運営は理事会が担保することになっている。また、教員組織規則において、「委員会の審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施する教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従って委員会を運営する。(以下図により、編成意思決定の過程を示す)



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
前田 弘	公益財団法人 日本サッカー協会 医学委員会委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
安積 研二	AcroBats株式会社 取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
土本 佳正	福岡医健・スポーツ専門学校 事務局長・スポーツ科学科 学科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
古谷野 潔	福岡医健・スポーツ専門学校 学校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
河口 青児	福岡医健・スポーツ専門学校 副校長・教務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
松原 敏昭	福岡医健・スポーツ専門学校 教務事務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

教育課程編成委員会は年2回開催し、第1回目を毎年5月、第2回目を翌年1月に実施している。今年度開催(予定)日時は以下の通り。また、委員会欠席委員に対しては個別に意見聴取を行うなど、必要に応じて、適宜適切に分科会等を開催する場合がある。

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月17日 15:30～17:00

第2回 令和7年1月24日 13:00～15:00 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

専門学校の役割は「各種資格の合格率をあげること」「一つでも多くの資格を取得させること」「希望する仕事・産業界に就職させること」などの意見を多くの委員から頂いた。

特にAT資格は、医療系国家資格ではないが医療系国家資格よりも難しく価値は高いので、AT資格の合格率を上げることが重要との意見を頂いた。そこで、通常授業以外の空いた時間に補講として過去問題をひたすら解く機会を設けると共に、AT理論試験突破に向けた合宿を計画している。また、「やる気スイッチ」「現場での楽しさ」などモチベーションを高めていくことにも努めている。

また、良い就職を勝ち取る為には実践力の強化が重要である旨のアドバイスを頂いたので、現場経験の積み重ねや実習の強化として、ソフトバンクホークスでの実習、女子サッカー福岡J・アンクラスやアメリカンフットボール福岡SUNSでの活動等年間通したゼミ活動の展開などの改善を図っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、「学校と業界が協力をして、業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学共同教育」を開校以来実践してきた。即戦力としての職業人教育を行うため、業界と連携して専門知識・技術、人間力を有した人材育成を行っている。このため、特に実習・演習科目に於いては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施及び達成度評価を行っている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。

更に、業界研修・臨床実習等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。実習実施前の協議を徹底すると共に、教員による実習巡回を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
体力測定法	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	体力の構成概念に基づいた各要素の知識を深めると共に、それぞれの正しい体力測定法を理解し、説明することができる。	株式会社ライコ 計1施設
業界研修	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	学習した知識・技術を実践で使い、実践力や社会人基礎力を身につけることができる。	加野病院、スポーツクラブNAS博多、ゴールドジム博多リバレイン、セントラルウェルネス クラブ24野間大池、スポーツクラブエスタコリア千早+24 他 計10施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にしていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研究会や講習会に専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会  
 主催: 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団  
 実施日: 令和6年3月13日  
 参加者: スポーツ科学科専任教員2名  
 内容: 健康運動実践指導者資格に関わる実務内容(テキスト改訂/評価総括/R6年認定試験実施計画など)について

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: キャリア教育インストラクター研修  
 主催: 滋慶教育科学研究所  
 実施日: 令和6年1月19日  
 参加者: スポーツ科学科専任教員1名  
 内容: キャリア教育を実践するための指導法や評価法について

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 第13回日本アスレティックトレーニング学会  
 主催: 日本アスレティックトレーニング学会  
 実施日: 令和6年9月14・15日  
 参加者: スポーツ科学科専任教員1名  
 内容: アスレティックトレーニングを支える経験・研究・教育の連携

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 2024年度 FDマイクロレベル研修 I  
 主催: 滋慶教育科学研究所  
 実施日: 令和6年4月12日  
 参加者: スポーツ科学科専任教員2名  
 内容: 学生変化に沿った教授法の基本(マインドとスキル)を習得

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、卒業生、保護者、地域住民、高等学校、企業により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価して、様々な角度からアドバイスや支援を行うことを通して、学校運営の改善に活用することを方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

運営部長を始め、学校長、事務局長、教務部長、学科長等で共有し、全スタッフに周知して、多岐に渡る学校運営の改善に努めている。特に、日々の学校運営の中で直ちに改善・対応が可能なことは、学校長の指導の下、学校全体に係る事案は事務局長・教務部長が中心となり速やかに改善に取り組み、学科に係ることは学科長が中心となり速やかに改善を図っている。また、改善に新たな予算確保が必要な案件は事務局長が中心となって次年度に向けて予算組を行い、改善を図っている。加えて、学則変更等が必要な案件は、学校長の指導の下、教務部長が中心となって学則変更手続きを行いながら改善を図っている。

学校関係者評価委員会を開催し、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した昨年度の学校自己点検報告書について、当校に関係の深い13名の学校関係者評価委員に評価していただき、各項目について概ね「優れている」との評価を頂いた。また「入学定員の充足」「中途退学者の低減」「地域との交流を更に深める」など多くのご意見を頂いた。

学校のリーダー会議、学科会議、全体会議などでこれらの意見を共有し、検討・環境整備に取り組んでいます。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
村田 栄治	村田整骨院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(柔道整復科)
要 信義	要鍼灸院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(鍼灸科)
橋本 修二	社会医療法人財団池友会 福岡和白病院 医療連携室 主幹	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(救急救命公務員科)
福田 智	医療法人 せと山荘クリニック 統括部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(理学療法科)
丸田 淳司	医療法人誠和会 牟田病院 医療部門科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(作業療法科)
案西 浩平	医療法人社団 桜香 あんざい歯科クリニック 理事長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(歯科衛生士科)
平野 千恵美	医療法人相生会 宮田病院 看護師長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(看護科)
安積 研二	AcroBats株式会社 取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(スポーツ科学科)
中西 祐介	株式会社サンドラッグ 人事部採用課主任	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(薬業科)
谷口 貴隆	スポーツ科学科 卒業生	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生代表
富崎 尚美	在校生(鍼灸科3年)保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者代表
清輔 正孝	福岡県立香椎高等学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高等学校関係者
戎崎 淳一	福岡市博多区大浜公民館 館長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://www.iken.ac.jp/school/public-info/>

公表時期: 令和6年5月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年定める事業計画の実行方針で提起された目標(カリキュラムのイノベーション、中途退学率の低減、就職100%、国家試験合格率100%等)を具現化するために、企業等からヒアリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成している。その為にも、学校の方針や考え方に加え、様々な詳細情報を十分に理解して頂いた上で、意見やアドバイス、支援を頂くことが重要となる。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である非常勤講師との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、企業とタイアップして行うイベント等あらゆる機会を活用して、積極的に情報の提供を行っている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校長名 所在地 連絡先 学校の沿革 建学の理念 学校安全関連 保健対策
(2) 各学科等の教育	受入方法 定員 在校生数 カリキュラム 学年階 各学科教育目標 教科目標 シラバス 卒業進級判定基準 取得する称号
(3) 教職員	教職員数 学校組織図 教員の実績
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学連携教育 キャリア教育ロードマップ 業界研修 キャリアセンター 就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	設備紹介 海外実学研修 部活動 学友会活動 産業界・行政・地域との連携
(6) 学生の生活支援	中途退学防止支援 就職支援 健康支援 学費相談 進路変更支援 支援機関 支援制度 学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧 学費サポート(奨学金・教育ローン案内・学費分割納入制度 等)
(8) 学校の財務	法人財務資料
(9) 学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生支援 海外研修実績
(11) その他	社会・地域貢献(ボランティア活動)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) (広報誌等の刊行物) その他( ) )

URL: <https://www.iken.ac.jp/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 スポーツ科学科 トータルビューティーコース)																
分類	必 修			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・実 習・実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			英会話	国際化に対応できる日常英会話を身につけるとともに、グローバルな感性を養うことができる。	1前	30	2	○			○				○
2	○			コミュニケーションスキル	対人援助職として必要なコミュニケーションを行うことができる。	1前	30	2	○			○				○
3	○			コンピュータ	ビジネス能力の一つとして、Microsoft officeの基礎技術を修得することができる。	1後	30	2		○		○				○
4		○		就職試験対策講座	就職活動で必要となるスキルとマナーを身につけ、就職活動に活かすことができる。	2前	30	2	○			○				○
5	○			機能的解剖学	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、運動に関わる身体構造や機能の説明をすることができる。	1前	30	2	○			○				○
6	○			機能的解剖学2	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、運動に関わる身体構造や機能の説明をすることができる。	1後	30	2	○			○				○
7	○			スポーツ生理学	運動によって生じる体の変化や適応状態について基礎的な知識を持ち、教育によって起こる身体的機能変化を理解することができる。	1前	30	2	○			○				○
8	○			スポーツ生理学2	運動によって生じる体の変化や適応状態について基礎的な知識を持ち、教育によって起こる身体的機能変化を理解することができる。	1後	30	2	○			○				○
9	○			発育発達	発達段階に応じた運動指導を学び、指導を行うことができる。	1後	30	2	○			○				○
10		○		健康管理概論	健康づくりや疾病予防の基礎的な知識の考え方を理解し、年代層に応じた健康指導を説明することができる。	2前	30	2	○			○				○
11	○			ボディケア	ケアの基本的なテクニックを学び、ボディケアを身につけ実践することができる。	1前	30	2		○		○				○
12	○			スポーツ障害	運動によって生じる整形外科的障害を理解し、目的に応じたテーピングを実践することができる。	1前	30	2		○		○				○
13	○			スポーツ医学	スポーツ障害にもならず、内科的疾患を有する人々のスポーツ医学や薬物の基礎知識を理解し、障害予防でのリハビリテーション、コンディショニングを修得することができる。	1後	30	2	○			○				○
14	○			スポーツ心理学	運動指導する際に心理学に関する科学的な専門知識を身につけ、指導に活かすことができる。	1前	30	2	○			○				○
15	○			体力測定法	体力の構成概念に基づいた各要素の知識を深めると共に、それぞれの正しい体力測定法を理解し、説明することができる。	1前	30	2		○		○				○ ○
16	○			スポーツ栄養学	一般人の健康維持のための栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を説明することができる。	1前	30	2	○			○				○
17	○			スポーツ栄養学2	一般人の健康維持のための栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を説明することができる。	1後	30	2	○			○				○
18	○			スポーツ社会学	スポーツの歴史を学び、スポーツが社会へ及ぼす影響について、読み解く力を身につけまとめることができる。	1後	30	2	○			○				○

19	○		プログラムデザイン	対象者別のトレーニングプログラムの作成方法を学び、作成することができる。	1 後	30	2	○			○			○
20	○		スポーツバイオメカニクス	スポーツや日常生活にある動作を説明でき、スポーツ動作改善や障害の予防と関連付けすることができる。	2 前	30	2	○			○			○
21	○		スポーツプログラミング	トレーニングの原則と効果、ウォーミングアップ、クーリングダウン、ストレッチの理論を説明することができる。	2 前	30	2	○			○			○
22	○		コーチング論	運動指導に必要な指導法や、コーチングにおける知識を学ぶと同時に、具体例を提示し実用的なコーチングスキルを身につけ、まとめることができる。	2 前	30	2	○			○			○
23	○		コンディショニング	身体の調整を行うための技術を身につけ、実際に身体調整をすることができる。	1 前	30	2		○		○			○
24	○		フィットネスエクササイズ	エアロビックな運動の特性を理解し、正しいステップ・筋コンディショニングの技術を身につけることができる。	1 前	30	2		○		○			○
25	○		レジスタンス	トレーニング指導をするうえで必要な知識を学び、目的に応じたトレーニングの指導をすることができる。	1 前	30	2		○		○			○
26	○		レジスタンス2	トレーニング指導をするうえで必要な知識を学び、目的に応じたトレーニングの指導をすることができる。	1 後	30	2		○		○			○
27	○		トレーニング科学	各種トレーニングの基礎知識、指導方法を学び、トレーニング指導をすることができる。	2 前	30	2	○			○			○
28	○		水中運動指導法	水の特性を学び、対象者に応じた水中運動の指導法を学ぶとともに水泳の基本動作を指導することができる。	1 前	15	1		○		○	○	○	○
29	○		進路指導	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	1 前	30	2	○			○			○
30	○		進路指導2	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	1 後	30	2	○			○			○
31	○		進路指導3	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	2 前	30	2	○			○			○
32	○		進路指導4	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	2 後	30	2	○			○			○
33	○		ゼミ	現場活動を通して求められるスキルやマインドを身につけるとともに、活動で起こる問題について討論を行い、現場力を身につけることができる。	2 前	30	2		○		○	○	○	○
34	○		ゼミ2	現場活動を通して求められるスキルやマインドを身につけるとともに、活動で起こる問題について討論を行い、現場力を身につけることができる。	2 後	30	2		○		○	○	○	○
35	○		進級制作	ゼミ活動を通して研究した成果についてまとめ、発表することができる。	2 前	30	2		○		○			○
36	○		卒業制作	ゼミ活動を通して研究した成果についてまとめ、発表することができる。	2 後	30	2		○		○			○
37		○	業界研修	学習した知識・技術を実践で使い、実践力や社会人基礎力を身につけることができる。	1 後	60	2				○		○	○
38	○		インターンシップ	インターンシップを通して職業観を養い、就職活動に活かすことができる。	2 前	60	2				○	○	○	○
39	○		専門実技演習	専門的な実習を通し、より専門性の高い指導や説明をすることができる。	2 前	30	2		○		○			○

40		○	専門科目	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 前	30	2	○	△	○	○		
41		○	専門科目2	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 前	30	2	○	△	○	○		
42		○	専門科目3	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 後	30	2	○	△	○	○		
43		○	専門科目4	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 後	30	2	○	△	○	○		
44		○	イベント・ボランティア活動	学内外で行われる様々なイベントやボランティア活動を通してリーダーシップ、フォローワーシップを体得することができる。	1 通・2 通	60	2			○	○	○	○
45		○	海外実学研修	海外の歴史や文化に触れ、国際的な感性を養う。また、施設の見学を通して最先端の技術を学び、学んできたことへの理解を深めることができる。	1 後	時数による				○	○	○	
46		○	特別講義	業界で活躍している特別講師を招き、最新の話題についての講義を受け、理解を深めることができる。	1 通・2 通	4回で1単位		○		○		○	
47		○	健康運動実践指導者基礎講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 前	30	2	○		○	○		
48		○	健康運動実践指導者筆記試験対策講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 後	30	2	○		○		○	
49		○	健康運動実践指導者実技試験対策講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 後	30	2	○		○		○	
50		○	アスリートフードマイスター	アスリートのパフォーマンスを最大化するための最適な食プログラムを学び、クライアントに合わせた食事指導をすることができる。	1 前	15	1	○		○		○	
51		○	SAQインストラクター レベル1試験対策講座	スピードシステムや解剖学的な視点から知識や動作を獲得し、コーチング視点を身につけることができる。	1 前	30	2	○		○	○		
52		○	幼児体育指導者	子どもに身体を動かす楽しさや素晴らしさを伝えることができる。理論・指導手順・手本・補助を正しく学び、自信を持って指導できるスキルを身につけることができる。	1 通・2 通	15	1	○		○	○		
53		○	FTPマットピラティス受験対策講座	身体の内側に意識を集中させ、全身をバランスよく動かしながら、身体の筋肉を鍛えゆがみのない柔軟性のあるしなやかな身体を身につけ、指導することができる。	2 前	30	2	○		○	○		
54		○	ADI筆記試験対策講座	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2	○		○		○	
55		○	ADI実技試験対策講座	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2	○		○		○	
56		○	スキルアップ	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2	○		○		○	
57		○	トレーニング指導者基礎講座	科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を修得し、スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導ができるようになる。	2 前	30	2	○		○		○	
58		○	トレーニング指導者受験対策講座	科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を修得し、スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導ができるようになる。	2 後	30	2	○		○		○	
59		○	スポーツシューフィッター	足の機能解剖や疾患の評価、治療に関する知識や形態観察とサイジング技術を修得し、目的に合った正しいシューズ選びとインソール選択のアドバイスができるようになる。	1 後	15	1	○		○		○	
60		○	AT受験対策講座	専門的な医学知識を有し、競技者の健康管理、スポーツ障害・外傷の予防、救急処置、アスレティックリハビリテーション及び体力トレーニング、コンディショニングなどができるようになる。	1 後	30	2	○		○		○	





職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
福岡医健・スポーツ専門学校		平成14年4月1日		古谷野 潔		〒 812-0032 (住所) 福岡県福岡市博多区石城町7番30号 (電話) 092-262-2119		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 滋慶学園		昭和58年12月23日		浮舟 邦彦		〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ科学科 (スポーツビジネスコース)	平成16(2004)年度	-	平成26(2014)年度			
学科の目的	「職業人教育を通して社会に貢献」をミッションとし、ビジネスの基本的なスキルやITに関する知識、スポーツ振興に関する仕組みやスポーツ用品の物販、スポーツを活用した観光やイベントのスポーツ興行を学び、お客様のニーズに合わせた提供ができるよう実践的なスキル習得し、スポーツを一生の職業として活躍できる人材を育成する。							
学科の特徴 (主な教育内容、取得可能な資格等)	<主な教育内容> スポーツ業界から求められる即戦力を養うため、産学連携教育を柱として人材育成を行い、目標とする資格取得を目指す。 <取得可能な資格> 健康運動実践指導者 他							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位数時間、単位いずれかに記入		1,700 単位数時間	1,620 単位数時間	1,020 単位数時間	180 単位数時間	0 単位数時間
				単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率		
160 人の内数	14 人	0 人		0 %		7 %		
就職等の状況	■卒業者数(C) : 5 人 ■就職希望者数(D) : 3 人 ■就職者数(E) : 2 人 ■地元就職者数(F) : 1 人 ■就職率(E/D) : 67 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 50 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 40 % ■進学者数 : 1 人 ■その他 : 1 人							
	(令和 5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) スポーツ施設							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL							
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.iken.ac.jp/course/sports-science/">https://www.iken.ac.jp/course/sports-science/</a>							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		2,820 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		30 単位時間						
うち必修授業時数		765 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		30 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B: 単位数による算定)							
	総単位数		単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		単位						
うち必修単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0 人	
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				3 人	
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人	
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人	
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				2 人	
	計						5 人	
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数						4 人		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。))との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

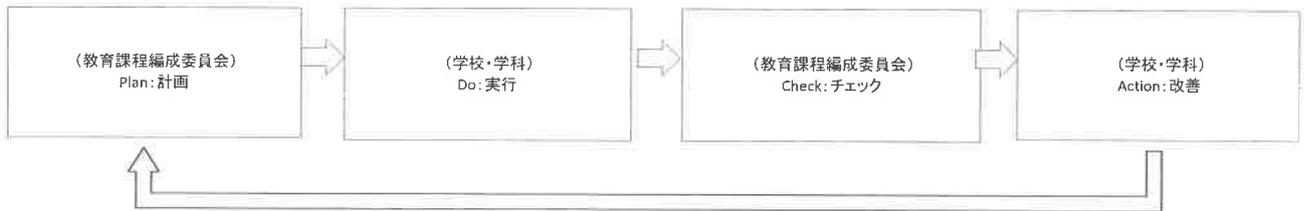
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。))における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体の役職員及び実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業の役職員が参画する教育課程編成委員会を年2回実施し、業界の動向や変化、それに伴うニーズや必要な人材像を把握すると共に、実施している授業やカリキュラム等を各委員に検証してもらいアドバイスや意見を頂く。また、教員による実習先訪問や就職担当による企業訪問を通して更なる情報収集を図る。それらを十分に生かしつつ、カリキュラムや授業方法の改善、授業科目の開設等を図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程の編成は、理事会の下に設置された教育課程編成委員会において討議した内容を十分に考慮したうえで、学科会議において編成を行うものとし、委員会の適切な運営は理事会が担保することになっている。また、教員組織規則において、「委員会の審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施する教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従って委員会を運営する。(以下図により、編成意思決定の過程を示す)



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
前田 弘	公益財団法人 日本サッカー協会 医学委員会委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
安積 研二	AcroBats株式会社 取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
土本 佳正	福岡医健・スポーツ専門学校 事務局長・スポーツ科学科 学科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
古谷野 潔	福岡医健・スポーツ専門学校 学校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
河口 青児	福岡医健・スポーツ専門学校 副校長・教務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
松原 敏昭	福岡医健・スポーツ専門学校 教務事務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

教育課程編成委員会は年2回開催し、第1回目を毎年5月、第2回目を翌年1月に実施している。今年度開催(予定)日時は以下の通り。また、委員会欠席委員に対しては個別に意見聴取を行うなど、必要に応じて、適宜適切に分科会等を開催する場合がある。

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月17日 15:30～17:00

第2回 令和7年1月24日 13:00～15:00 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

専門学校の役割は「各種資格の合格率をあげること」「一つでも多くの資格を取得させること」「希望する仕事・産業界に就職させること」などの意見を多くの委員から頂いた。

特にAT資格は、医療系国家資格ではないが医療系国家資格よりも難しく価値は高いので、AT資格の合格率を上げることが重要との意見を頂いた。そこで、通常授業以外の空いた時間に補講として過去問題をひたすら解く機会を設けると共に、AT理論試験突破に向けた合宿を計画している。また、「やる気スイッチ」・「現場での楽しさ」などモチベーションを高めていくことにも努めている。

また、良い就職を勝ち取る為には実践力の強化が重要である旨のアドバイスを頂いたので、現場経験の積み重ねや実習の強化として、ソフトバンクホークスでの実習、女子サッカー福岡J・アンクラスやアメリカンフットボール福岡SUNSでの活動等年間通したゼミ活動の展開などの改善を図っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、「学校と業界が協力をして、業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学共同教育」を開校以来実践してきた。即戦力としての職業人教育を行うため、業界と連携して専門知識・技術、人間力を有した人材育成を行っている。このため、特に実習・演習科目に於いては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施及び達成度評価を行っている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。  
更に、業界研修・臨床実習等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。実習実施前の協議を徹底すると共に、教員による実習巡回を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
体力測定法	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	体力の構成概念に基づいた各要素の知識を深めると共に、それぞれの正しい体力測定法を理解し、説明することができる。	株式会社ライコ 計1施設
業界研修	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	学習した知識・技術を実践で使い、実践力や社会人基礎力を身につけることができる。	加野病院、スポーツクラブNAS博多、ゴールドジム博多リバレイン、セントラルウェルネスクラブ24野間大池、スポーツクラブエスタクリア千早+24 他 計10施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研究会や講習会に専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会  
主 催:公益財団法人 健康・体力づくり事業財団  
実施日:令和6年3月13日  
参加者:スポーツ科学科専任教員2名  
内 容:健康運動実践指導者資格に関わる実務内容(テキスト改訂/評価総括/R6年認定試験実施計画など)について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:キャリア教育インストラクター研修  
主 催:滋慶教育科学研究所  
実施日:令和6年1月19日  
参加者:スポーツ科学科専任教員1名  
内 容:キャリア教育を実践するための指導法や評価法について

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:第13回日本アスレティックトレーニング学会  
主 催:日本アスレティックトレーニング学会  
実施日:令和6年9月14・15日  
参加者:スポーツ科学科専任教員1名  
内 容:アスレティックトレーニングを支える経験・研究・教育の連携

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:2024年度 FDマイクロレベル研修 I  
主 催:滋慶教育科学研究所  
実施日:令和6年4月12日  
参加者:スポーツ科学科専任教員2名  
内 容:学生変化に沿った教授法の基本(マインドとスキル)を習得

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、卒業生、保護者、地域住民、高等学校、企業により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価して、様々な角度からアドバイスや支援を行うことを通して、学校運営の改善に活用することを方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

運営部長を始め、学校長、事務局長、教務部長、学科長等で共有し、全スタッフに周知して、多岐に渡る学校運営の改善に努めている。特に、日々の学校運営の中で直ちに改善・対応が可能なことは、学校長の指導の下、学校全体に係る事案は事務局長・教務部長が中心となり速やかに改善に取り組み、学科に係ることは学科長が中心となり速やかに改善を図っている。また、改善に新たな予算確保が必要な案件は事務局長が中心となって次年度に向けて予算組を行い、改善を図っている。加えて、学則変更等が必要な案件は、学校長の指導の下、教務部長が中心となって学則変更手続きを行いながら改善を図っている。

学校関係者評価委員会を開催し、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した昨年度の学校自己点検報告書について、当校に関係の深い13名の学校関係者評価委員に評価していただき、各項目について概ね「優れている」との評価を頂いた。また「入学定員の充足」「中途退学者の低減」「地域との交流を更に深める」など多くのご意見を頂いた。

学校のリーダー会議、学科会議、全体会議などでこれらの意見を共有し、検討・環境整備に取り組んでいきます。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
村田 栄治	村田整骨院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(柔道整復科)
要 信義	要鍼灸院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(鍼灸科)
橋本 修二	社会医療法人財団池友会 福岡和白病院 医療連携室 主幹	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(救急救命公務員科)
福田 智	医療法人 せと山荘クリニック 統括部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(理学療法科)
丸田 淳司	医療法人誠和会 牟田病院 医療部門科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(作業療法科)
案西 浩平	医療法人社団 桜香 あんざい歯科クリニック 理事長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(歯科衛生士科)
平野 千恵美	医療法人相生会 宮田病院 看護師長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(看護科)
安積 研二	AcroBats株式会社 取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(スポーツ科学科)
中西 祐介	株式会社サンドラッグ 人事部採用課主任	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(薬業科)
谷口 貴隆	スポーツ科学科 卒業生	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生代表
富崎 尚美	在校生(鍼灸科3年)保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者代表
清輔 正孝	福岡県立香椎高等学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高等学校関係者
戎崎 淳一	福岡市博多区大浜公民館 館長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL : <https://www.iken.ac.jp/school/public-info/>

公表時期 : 令和6年5月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年定める事業計画の実行方針で提起された目標(カリキュラムのイノベーション、中途退学率の低減、就職100%、国家試験合格率100%等)を具現化するために、企業等からヒアリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成している。その為にも、学校の方針や考え方に加え、様々な詳細情報を十分に理解して頂いた上で、意見やアドバイス、支援を頂くことが重要となる。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である非常勤講師との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、企業とタイアップして行うイベント等あらゆる機会を活用して、積極的に情報の提供を行っている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校長名 所在地 連絡先 学校の沿革 建学の理念 学校安全関連 保健対策
(2) 各学科等の教育	入学方法 定員 在校生数 カリキュラム 学年暦 各学科教育目標 教科目録 シラバス 卒業進級判定基準 取得する称号
(3) 教職員	教職員数 学校組織図 教員の実績
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学連携教育 キャリア教育ロードマップ 業界研修 キャリアセンター 就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	設備紹介 海外実学研修 部活動 学友会活動 産業界・行政・地域との連携
(6) 学生の生活支援	中途退学防止支援 就職支援 健康支援 学費相談 進路変更支援 支援機関 支援制度 学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧 学費サポート(奨学金・教育ローン案内・学費分割納入制度 等)
(8) 学校の財務	法人財務資料
(9) 学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生支援 海外研修実績
(11) その他	社会・地域貢献(ボランティア活動)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) (広報誌等の刊行物) その他( ) )

URL: <https://www.iken.ac.jp/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 スポーツ科学科 スポーツビジネスコース)																
分類	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			英会話	国際化に対応できる日常英会話を身につけるとともに、グローバルな感性を養うことができる。	1前	30	2	○			○				○
2	○			コミュニケーションスキル	対人援助職として必要なコミュニケーションを行うことができる。	1前	30	2	○			○				○
3	○			コンピュータ	ビジネス能力の一つとして、Microsoft officeの基礎技術を修得することができる。	1後	30	2		○		○				○
4		○		就職試験対策講座	就職活動で必要となるスキルとマナーを身につけ、就職活動に活かすことができる。	2前	30	2	○			○				○
5	○			機能的解剖学	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、運動に関わる身体構造や機能の説明をすることができる。	1前	30	2	○			○				○
6	○			機能的解剖学2	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、運動に関わる身体構造や機能の説明をすることができる。	1後	30	2	○			○				○
7	○			スポーツ生理学	運動によって生じる体の変化や適応状態について基礎的な知識を持ち、教育によって起こる身体的機能変化を理解することができる。	1前	30	2	○			○				○
8	○			スポーツ生理学2	運動によって生じる体の変化や適応状態について基礎的な知識を持ち、教育によって起こる身体的機能変化を理解することができる。	1後	30	2	○			○				○
9	○			発育発達	発達段階に応じた運動指導を学び、指導を行うことができる。	1後	30	2	○			○				○
10	○			健康管理概論	健康づくりや疾病予防の基礎的な知識の考え方を理解し、年代層に応じた健康指導を説明することができる。	2前	30	2	○			○				○
11	○			ボディケア	ケアの基本的なテクニックを学び、ボディケアを身につけ実践することができる。	1前	30	2		○		○				○
12	○			スポーツ障害	運動によって生じる整形外科的障害を理解し、目的に応じたテーピングを実践することができる。	1前	30	2		○		○			○	
13	○			スポーツ医学	スポーツ障害にもならず、内病的疾病を有する人々のスポーツ医学や薬物の基礎知識を理解し、障害予防でのリハビリテーション、コンディショニングを修得することができる。	1後	30	2	○			○				○
14	○			スポーツ心理学	運動指導の際に心理学に関する科学的な専門知識を身につけ、指導に活かすことができる。	1前	30	2	○			○				○
15	○			体力測定法	体力の構成概念に基づいた各要素の知識を深めると共に、それぞれの正しい体力測定法を理解し、説明することができる。	1前	30	2		○		○				○
16	○			スポーツ栄養学	一般人の健康維持のための栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を説明することができる。	1前	30	2	○			○				○
17	○			スポーツ栄養学2	一般人の健康維持のための栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を説明することができる。	1後	30	2	○			○				○
18	○			スポーツ社会学	スポーツの歴史を学び、スポーツが社会へ及ぼす影響について、読み解く力を身につけまとめることができる。	1後	30	2	○			○				○

19	○		プログラムデザイン	対象者別のトレーニングプログラムの作成方法を学び、作成することができる。	1 後	30	2	○		○		○	
20		○	スポーツバイオメカニクス	スポーツや日常生活にある動作を説明でき、スポーツ動作改善や障害の予防と関連付けることができる。	2 前	30	2	○		○		○	
21		○	スポーツプログラミング	トレーニングの原則と効果、ウォーミングアップ、クーリングダウン、ストレッチの理論を説明することができる。	2 前	30	2	○		○		○	
22		○	コーチング論	運動指導に必要な指導法や、コーチングにおける知識を学ぶと同時に、具体例を提示し実用的なコーチングスキルを身につけ、まとめることができる。	2 前	30	2	○		○		○	
23	○		コンディショニング	身体の調整を行うための技術を身につけ、実際に身体調整をすることができる。	1 前	30	2		○	○		○	
24	○		フィットネスエクササイズ	エアロビックな運動の特性を理解し、正しいステップ・筋コンディショニングの技術を身につけることができる。	1 前	30	2		○	○		○	
25	○		レジスタンス	トレーニング指導をするうえで必要な知識を学び、目的に応じたトレーニングの指導をすることができる。	1 前	30	2		○	○		○	
26	○		レジスタンス2	トレーニング指導をするうえで必要な知識を学び、目的に応じたトレーニングの指導をすることができる。	1 後	30	2		○	○		○	
27		○	トレーニング科学	各種トレーニングの基礎知識、指導方法を学び、トレーニング指導をすることができる。	2 前	30	2	○		○		○	
28	○		水中運動指導法	水の特性を学び、対象者に応じた水中運動の指導法を学ぶとともに水泳の基本動作を指導することができる。	1 前	15	1		○		○	○	○
29		○	進路指導	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	1 前	30	2	○		○		○	
30		○	進路指導2	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	1 後	30	2	○		○		○	
31		○	進路指導3	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	2 前	30	2	○		○		○	
32		○	進路指導4	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	2 後	30	2	○		○		○	
33	○		ゼミ	現場活動を通して求められるスキルやマインドを身につけるとともに、活動で起こる問題について討論を行い、現場力を身につけることができる。	2 前	30	2		○	○	○	○	○
34	○		ゼミ2	現場活動を通して求められるスキルやマインドを身につけるとともに、活動で起こる問題について討論を行い、現場力を身につけることができる。	2 後	30	2		○	○	○	○	○
35	○		進級制作	ゼミ活動を通して研究した成果についてまとめ、発表することができる。	2 前	30	2		○	○		○	○
36	○		卒業制作	ゼミ活動を通して研究した成果についてまとめ、発表することができる。	2 後	30	2		○	○		○	
37		○	業界研修	学習した知識・技術を実践で使い、実践力や社会人基礎力を身につけることができる。	1 後	60	2			○	○	○	○
38		○	インターンシップ	インターンシップを通して職業観を養い、就職活動に活かすことができる。	2 前	60	2			○	○	○	○
39		○	専門実技演習	専門的な実習を通し、より専門性の高い指導や説明をすることができる。	2 前	30	2		○	○		○	

40			専門科目	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 前	30	2	○	△	○	○							
41			専門科目2	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 前	30	2	○	△	○	○							
42			専門科目3	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 後	30	2	○	△	○	○							
43			専門科目4	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2 後	30	2	○	△	○	○							
44			イベント・ボランティア活動	学内外で行われる様々なイベントやボランティア活動を通してリーダーシップ、フォロワーシップを体得することができる。	1 通・2 通	60	2			○	○	○	○					
45			海外実学研修	海外の歴史や文化に触れ、国際的な感性を養う。また、施設の見学を通して最先端の技術を学び、学んできたことへの理解を深めることができる。	1 後	時数による					○	○	○					
46			特別講義	業界で活躍している特別講師を招き、最新の話題についての講義を受け、理解を深めることができる。	1 通・2 通	4回で1単位		○			○						○	
47			健康運動実践指導者基礎講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 前	30	2	○			○	○						
48			健康運動実践指導者筆記試験対策講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 後	30	2	○			○						○	
49			健康運動実践指導者実技試験対策講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2 後	30	2		○		○						○	
50			アスリートフードマイスター	アスリートのパフォーマンスを最大化するための最適な食プログラムを学び、クライアントに合わせた食事指導をすることができる。	1 前	15	1	○			○							○
51			SAQインストラクター レベル1試験対策講座	スピードシステムや解剖学的な視点から知識や動作を獲得し、コーチング視点を身につけることができる。	1 前	30	2		○		○	○						○
52			幼児体育指導者	子どもに身体を動かす楽しさや素晴らしさを伝えることができる。理論・指導手順・手本・補助を正しく学び、自信を持って指導できるスキルを身につけることができる。	1 通・2 通	15	1		○		○	○						○
53			FTPマットピラティス受験対策講座	身体の内側に意識を集中させ、全身をバランスよく動かしながら、身体の筋肉を鍛えゆがみのない柔軟性のあるしなやかな身体を身につけ、指導することができる。	2 前	30	2		○		○	○						○
54			ADI筆記試験対策講座	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2	○			○							○
55			ADI実技試験対策講座	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2		○		○							○
56			スキルアップ	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2 前	30	2		○		○							○
57			トレーニング指導者基礎講座	科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を修得し、スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導ができるようになる。	2 前	30	2	○			○							○
58			トレーニング指導者受験対策講座	科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を修得し、スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導ができるようになる。	2 後	30	2	○			○							○
59			スポーツシューフィッター	足の機能解剖や疾患の評価、治療に関する知識や形態観察とサイジング技術を修得。目的に合った正しいシューズ選びとインソール選択のアドバイスができるようになる。	1 後	15	1	○			○							○
60			AT受験対策講座	専門的な医学知識を有し、競技者の健康管理、スポーツ障害・外傷の予防、救急処置、アスレティックリハビリテーション及び体力トレーニング、コンディショニングなどができるようになる。	1 後	30	2	○			○							○



82	○	WEBマーケティング	日々変化する情報技術を知り、インターネットを用いたマーケティングへの理解を深め、実践することができる。	2 前	30	2	○		○		○
83	○	デザイン2	デザインに関する基礎を学び、ホームページ・広告のデザイン基礎を身につけることができる。	2 前	60	4	○		○		○
84	○	映像制作2	映像制作に関わる一連の知識・技術を修得し、自ら企画・制作できる力を身につけることができる。	2 前	60	4	○		○		○
85	○	マーケティング2	マーケティングの知識を修得し、実践的なマーケティングにおいて解決・対応できる力を身につけることができる。	2 後	30	2	○		○		○
86	○	WEBマーケティング2	日々変化する情報技術を知り、インターネットを用いたマーケティングへの理解を深め、実践することができる。	2 後	30	2	○		○		○
87	○	映像制作3	映像制作に関わる一連の知識・技術を修得し、自ら企画・制作できる力を身につけることができる。	2 後	60	4	○		○		○
88	○	イベント2	資料作成技術、プレゼンテーション能力、ビジネススキルを身につけることができる。	2 後	30	2	○		○		○
89	○	スポーツビジネス3	「スポーツによって人が動く仕組みづくり」や「スポーツへの参画率を高める仕組みづくり」について説明ができる。	2 後	30	2	○		○		○
90	○	スポーツショップ演習	スポーツ用品の機能や特徴を学ぶとともに、お客様のニーズに合わせた商品提供ができる。	1 通・ 2 通	15	1	○		○		○
91	○	スポーツイベント演習	イベント運営を経験することで、問題発見や解決策を見いだせる実践力を身につけることができる。	1 通・ 2 通	30	2	○		○		○
合計					91	科目	182	単位(単位時間)			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件	当該学年において、履修すべき科目のうち、履修を認定されない科目(不合格)が1科目以上あれば卒業できない。また、履修すべき科目のいずれかについて、出席回数が総授業回数 $\frac{3}{10}$ の2未満の者は卒業できない。	1学年の学期区分	2期
履修方法	講義・演習・実技・実習のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。選択必修科目と自由選択科目を履修し、各科目66.7%以上の出席し試験等による60点以上の評定で単位取得する。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
福岡医療・スポーツ専門学校		平成14年4月1日		古谷野 潔		〒 812-0032 (住所) 福岡県福岡市博多区石城町7番30号 (電話) 092-262-2119				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人 滋慶学園		昭和58年12月23日		浮舟 邦彦		〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度					
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ科学科 (パーソナルトレーナーコース)	平成16(2004)年度	-	平成26(2014)年度					
学科の目的	「職業人教育を通して社会に貢献」をミッションとし、運動の3大要素である「トレーニング」「栄養」「休養」について、科学的根拠に基づいた知識を自身のカラダで実践することにより、クライアントから信頼を得られるカラダづくりを行う。ボディメイクからコンディショニングまで幅広い対象者(クライアント)が望む理想の身体に導くことができる人材を育成する。									
学科の特徴 (主な教育内容、取得可能な資格等)	<主な教育内容> スポーツ業界から求められる即戦力を養うため、産学連携教育を柱として人材育成を行い、目標とする資格取得を目指す。 <取得可能な資格> ボディメイキングトレーナー、パーソナルトレーナー、ストレングス&コンディショニングトレーナー 他									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技			
2年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入 1,700 単位数	1,395 単位数	1,110 単位数	180 単位数	0 単位数	0 単位数			
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率						
160 人の内数	7 人	0 人	0 %	- %						
就職等の状況	■卒業者数(C)		— 人							
	■就職希望者数(D)		— 人							
	■就職者数(E)		— 人							
	■地元就職者数(F)		— 人							
	■就職率(E/D)		— %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		— %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		— %							
	■進学者数		— 人							
	■その他		— 人							
	(令和 5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) <令和6年度新設されたコースのため卒業生はまだいません。>										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有る場合、例えば以下について任意記載		無							
当該学科の ホームページ URL	<a href="https://www.iken.ac.jp/course/sports-science/">https://www.iken.ac.jp/course/sports-science/</a>									
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれかに 記入)	(A: 単位数による算定)									
	総授業時数		2,685 単位数							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		60 単位数								
うち企業等と連携した演習の授業時数		30 単位数								
うち必修授業時数		765 単位数								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位数								
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		30 単位数								
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位数								
(B: 単位数による算定)										
総単位数		単位								
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位								
うち企業等と連携した演習の単位数		単位								
うち必修単位数		単位								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位								
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位								
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位								
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0 人							
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3 人							
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人							
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人							
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		2 人							
	計		5 人							
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4 人								

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

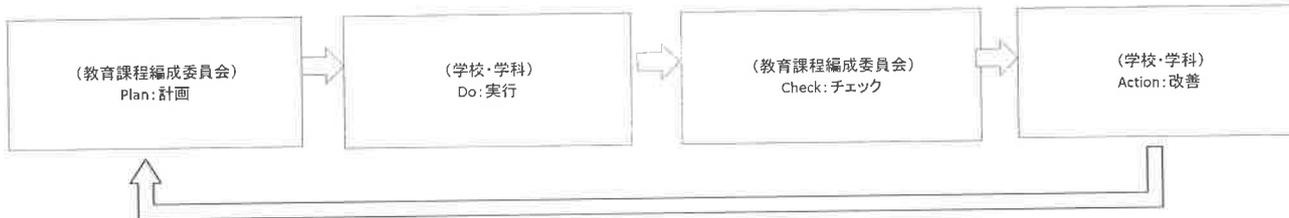
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体の役職員及び実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業の役職員が参画する教育課程編成委員会を年2回実施し、業界の動向や変化、それに伴うニーズや必要な人材像を把握すると共に、実施している授業やカリキュラム等を各委員に検証してもらいアドバイスや意見を頂く。また、教員による実習先訪問や就職担当による企業訪問を通して更なる情報収集を図る。それらを十分に生かしつつ、カリキュラムや授業方法の改善、授業科目の開設等を図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程の編成は、理事会の下に設置された教育課程編成委員会において討議した内容を十分に考慮したうえで、学科会議において編成を行うものとし、委員会の適切な運営は理事会が担保することになっている。また、教員組織規則において、「委員会の審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施する教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従って委員会を運営する。(以下図により、編成意思決定の過程を示す)



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
前田 弘	公益財団法人 日本サッカー協会 医学委員会委員	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
安積 研二	AeroBats株式会社 取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
土本 佳正	福岡医健・スポーツ専門学校 事務局長・スポーツ科学科 学科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
古谷野 潔	福岡医健・スポーツ専門学校 学校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
河口 青児	福岡医健・スポーツ専門学校 副校長・教務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
松原 敏昭	福岡医健・スポーツ専門学校 教務事務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

教育課程編成委員会は年2回開催し、第1回目を毎年5月、第2回目を翌年1月に実施している。今年度開催(予定)日時は以下の通り。また、委員会欠席委員に対しては個別に意見聴取を行うなど、必要に応じて、適宜適切に分科会等を開催する場合がある。

(開催日時(実績))

- 第1回 令和6年5月17日 15:30～17:00
- 第2回 令和7年1月24日 13:00～15:00 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

専門学校の役割は「各種資格の合格率をあげること」「一つでも多くの資格を取得させること」「希望する仕事・産業界に就職させること」などの意見を多くの委員から頂いた。

特にAT資格は、医療系国家資格ではないが医療系国家資格よりも難しく価値は高いので、AT資格の合格率を上げることが重要との意見を頂いた。そこで、通常授業以外の空いた時間に補講として過去問題をひたすら解く機会を設けると共に、AT理論試験突破に向けた合宿を計画している。また、「やる気スイッチ」「現場での楽しさ」などモチベーションを高めていくことにも努めている。

また、良い就職を勝ち取る為には実践力の強化が重要である旨のアドバイスを頂いたので、現場経験の積み重ねや実習の強化として、ソフトバンクホークスでの実習、女子サッカー福岡J・アンクラスやアメリカンフットボール福岡SUNSでの活動等年間通したゼミ活動の展開などの改善を図っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、「学校と業界が協力をして、業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学共同教育」を開校以来実践してきた。即戦力としての職業人教育を行うため、業界と連携して専門知識・技術、人間力を有した人材育成を行っている。このため、特に実習・演習科目に於いては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施及び達成度評価を行っている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。

更に、業界研修・臨床実習等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。実習実施前の協議を徹底すると共に、教員による実習巡回を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
体力測定法	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	体力の構成概念に基づいた各要素の知識を深めると共に、それぞれの正しい体力測定法を理解し、説明することができる。	株式会社ライコ 計1施設
業界研修	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	学習した知識・技術を実践で使い、実践力や社会人基礎力を身につけることができる。	加野病院、スポーツクラブNAS博多、ゴールドジム博多リバレイン、セントラルウェルネス クラブ24野間大池、スポーツクラブエスタクオリア千早+24 他 計10施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研究会や講習会に専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名：健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会  
 主催：公益財団法人 健康・体力づくり事業財団  
 実施日：令和6年3月13日  
 参加者：スポーツ科学科専任教員2名  
 内容：健康運動実践指導者資格に関わる実務内容（テキスト改訂/評価総括/R6年認定試験実施計画など）について

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名：キャリア教育インストラクター研修  
 主催：滋慶教育科学研究所  
 実施日：令和6年1月19日  
 参加者：スポーツ科学科専任教員1名  
 内容：キャリア教育を実践するための指導法や評価法について

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名：第13回日本アスレティックトレーニング学会  
 主催：日本アスレティックトレーニング学会  
 実施日：令和6年9月14・15日  
 参加者：スポーツ科学科専任教員1名  
 内容：アスレティックトレーニングを支える経験・研究・教育の連携

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名：2024年度 FDマイクロレベル研修Ⅰ  
 主催：滋慶教育科学研究所  
 実施日：令和6年4月12日  
 参加者：スポーツ科学科専任教員2名  
 内容：学生変化に沿った教授法の基本（マインドとスキル）を習得

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、卒業生、保護者、地域住民、高等学校、企業により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価して、様々な角度からアドバイスや支援を行うことを通して、学校運営の改善に活用することを方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	教育成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

運営部長を始め、学校長、事務局長、教務部長、学科長等で共有し、全スタッフに周知して、多岐に渡る学校運営の改善に努めている。特に、日々の学校運営の中で直ちに改善・対応が可能なことは、学校長の指導の下、学校全体に係る事業は事務局長・教務部長が中心となり速やかに改善に取り組み、学科に係ることは学科長が中心となり速やかに改善を図っている。また、改善に新たな予算確保が必要な案件は事務局長が中心となって次年度に向けて予算組を行い、改善を図っている。加えて、学則変更等が必要な案件は、学校長の指導の下、教務部長が中心となって学則変更手続きを行いながら改善を図っている。  
 学校関係者評価委員会を開催し、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した昨年度の学校自己点検報告書について、当校に關係の深い13名の学校関係者評価委員に評価していただき、各項目について概ね「優れている」との評価を頂いた。また「入学定員の充足」「中途退学者の低減」「地域との交流を更に深める」など多くのご意見を頂いた。  
 学校のリーダー会議、学科会議、全体会議などでこれらの意見を共有し、検討・環境整備に取り組んでいきます。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
村田 栄治	村田整骨院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(柔道整復科)
要 信義	要鍼灸院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(鍼灸科)
橋本 修二	社会医療法人財団池友会 福岡和白病院 医療連携室 主幹	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(救急救命公務員科)
福田 智	医療法人 せと山荘クリニック 統括部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(理学療法科)
丸田 淳司	医療法人誠和会 牟田病院 医療部門科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(作業療法科)
案西 浩平	医療法人社団 桜香 あんざい歯科クリニック 理事長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(歯科衛生士科)
平野 千恵美	医療法人相生会 宮田病院 看護師長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(看護科)
安積 研二	AcroBats株式会社 取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(スポーツ科学科)
中西 祐介	株式会社サンドラッグ 人事部採用課主任	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員(薬業科)
谷口 貴隆	スポーツ科学科 卒業生	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生代表
富崎 尚美	在校生(鍼灸科3年)保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者代表
清輔 正孝	福岡県立香椎高等学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高等学校関係者
戒崎 淳一	福岡市博多区大浜公民館 館長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )  
 URL: <https://www.iken.ac.jp/school/public-info/>  
 公表時期: 令和6年5月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年定める事業計画の実行方針で提起された目標(カリキュラムのイノベーション、中途退学率の低減、就職100%、国家試験合格率100%等)を具現化するために、企業等からヒアリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成している。その為にも、学校の方針や考え方に加え、様々な詳細情報を十分に理解して頂いた上で、意見やアドバイス、支援を頂くことが重要となる。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である非常勤講師との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、企業とタイアップして行うイベント等あらゆる機会を活用して、積極的に情報の提供を行っている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校長名 所在地 連絡先 学校の沿革 建学の理念 学校安全関連 保健対策
(2) 各学科等の教育	受入方法 定員 在校生数 カリキュラム 学年暦 各学科教育目標 教科目標 シラバス 卒業進級判定基準 取得する称号
(3) 教職員	教職員数 学校組織図 教員の実績
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学連携教育 キャリア教育ロードマップ 業界研修 キャリアセンター 就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	設備紹介 海外実学研修 部活動 学友会活動 産業界・行政・地域との連携
(6) 学生の生活支援	中途退学防止支援 就職支援 健康支援 学費相談 進路変更支援 支援機関 支援制度 学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧 学費サポート(奨学金・教育ローン案内・学費分割納入制度 等)
(8) 学校の財務	法人財務資料
(9) 学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生支援 海外研修実績
(11) その他	社会・地域貢献(ボランティア活動)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) (広報誌等の刊行物) ・ その他( ) )

URL: <https://www.iken.ac.jp/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 スポーツ科学科 パーソナルトレーナーコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			英会話	国際化に対応できる日常英会話を身につけるとともに、グローバルな感性を養うことができる。	1前	30	2	○			○			○
2	○			コミュニケーションスキル	対人援助職として必要なコミュニケーションを行うことができる。	1前	30	2	○			○			○
3	○			コンピュータ	ビジネス能力の一つとして、Microsoft officeの基礎技術を修得することができる。	1後	30	2		○		○			○
4		○		就職試験対策講座	就職活動で必要となるスキルとマナーを身につけ、就職活動に活かすことができる。	2前	30	2	○			○			○
5	○			機能的解剖学	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、運動に関わる身体構造や機能の説明をすることができる。	1前	30	2	○			○			○
6	○			機能的解剖学2	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、運動に関わる身体構造や機能の説明をすることができる。	1後	30	2	○			○			○
7	○			スポーツ生理学	運動によって生じる体の変化や適応状態について基礎的な知識を持ち、教育によって起こる身体的機能変化を理解することができる。	1前	30	2	○			○			○
8	○			スポーツ生理学2	運動によって生じる体の変化や適応状態について基礎的な知識を持ち、教育によって起こる身体的機能変化を理解することができる。	1後	30	2	○			○			○
9	○			発育発達	発達段階に応じた運動指導を学び、指導を行うことができる。	1後	30	2	○			○			○
10		○		健康管理概論	健康づくりや疾病予防の基礎的な知識の考え方を理解し、年代層に応じた健康指導を説明することができる。	2前	30	2	○			○			○
11	○			ボディケア	ケアの基本的なテクニックを学び、ボディケアを身につけ実践することができる。	1前	30	2		○		○			○
12	○			スポーツ障害	運動によって生じる整形外科的障害を理解し、目的に応じたテーピングを実践することができる。	1前	30	2		○		○			○
13	○			スポーツ医学	スポーツ障害にもならず、内科的疾病を有する人々のスポーツ医学や薬物の基礎知識を理解し、障害予防でのリハビリテーション、コンディショニングを修得することができる。	1後	30	2	○			○			○
14	○			スポーツ心理学	運動指導する際に心理学に関する科学的な専門知識を身につけ、指導に活かすことができる。	1前	30	2	○			○			○
15	○			体力測定法	体力の構成概念に基づいた各要素の知識を深めると共に、それぞれの正しい体力測定法を理解し、説明することができる。	1前	30	2		○		○			○ ○
16	○			スポーツ栄養学	一般人の健康維持のための栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を説明することができる。	1前	30	2	○			○			○
17	○			スポーツ栄養学2	一般人の健康維持のための栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を説明することができる。	1後	30	2	○			○			○
18	○			スポーツ社会学	スポーツの歴史を学び、スポーツが社会へ及ぼす影響について、読み解く力を身につけまとめることができる。	1後	30	2	○			○			○

19	○		プログラムデザイン	対象者別のトレーニングプログラムの作成方法を学び、作成することができる。	1 後	30	2	○			○			○
20	○		スポーツバイオメカニクス	スポーツや日常生活にある動作を説明でき、スポーツ動作改善や障害の予防と関連付けすることができる。	2 前	30	2	○			○			○
21	○		スポーツプログラミング	トレーニングの原則と効果、ウォーミングアップ、クーリングダウン、ストレッチの理論を説明することができる。	2 前	30	2	○			○			○
22	○		コーチング論	運動指導に必要な指導法や、コーチングにおける知識を学ぶと同時に、具体例を提示し実用的なコーチングスキルを身につけ、まとめることができる。	2 前	30	2	○			○			○
23	○		コンディショニング	身体の調整を行うための技術を身につけ、実際に身体調整をすることができる。	1 前	30	2		○		○			○
24	○		フィットネスエクササイズ	エアロビックな運動の特性を理解し、正しいステップ・筋コンディショニングの技術を身につけることができる。	1 前	30	2		○		○			○
25	○		レジスタンス	トレーニング指導をするうえで必要な知識を学び、目的に応じたトレーニングの指導をすることができる。	1 前	30	2		○		○			○
26	○		レジスタンス2	トレーニング指導をするうえで必要な知識を学び、目的に応じたトレーニングの指導をすることができる。	1 後	30	2		○		○			○
27	○		トレーニング科学	各種トレーニングの基礎知識、指導方法を学び、トレーニング指導をすることができる。	2 前	30	2	○			○			○
28	○		水中運動指導法	水の特性を学び、対象者に応じた水中運動の指導法を学ぶとともに水泳の基本動作を指導することができる。	1 前	15	1		○		○	○	○	○
29	○		進路指導	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	1 前	30	2	○			○			○
30	○		進路指導2	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	1 後	30	2	○			○			○
31	○		進路指導3	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	2 前	30	2	○			○			○
32	○		進路指導4	業界研修、就職活動、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路を考えることができる。	2 後	30	2	○			○			○
33	○		ゼミ	現場活動を通して求められるスキルやマインドを身につけるとともに、活動で起こる問題について討論を行い、現場力を身につけることができる。	2 前	30	2		○		○	○	○	○
34	○		ゼミ2	現場活動を通して求められるスキルやマインドを身につけるとともに、活動で起こる問題について討論を行い、現場力を身につけることができる。	2 後	30	2		○		○	○	○	○
35	○		進級制作	ゼミ活動を通して研究した成果についてまとめ、発表することができる。	2 前	30	2		○		○			○
36	○		卒業制作	ゼミ活動を通して研究した成果についてまとめ、発表することができる。	2 後	30	2		○		○			○
37		○	業界研修	学習した知識・技術を実践で使い、実践力や社会人基礎力を身につけることができる。	1 後	60	2				○	○		○
38	○		インターンシップ	インターンシップを通して職業観を養い、就職活動に活かすことができる。	2 前	60	2				○	○	○	○
39	○		専門実技演習	専門的な実習を通し、より専門性の高い指導や説明をすることができる。	2 前	30	2		○		○			○

40		○	専門科目	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2前	30	2	○	△	○	○							
41		○	専門科目2	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2前	30	2	○	△	○	○							
42		○	専門科目3	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2後	30	2	○	△	○	○							
43		○	専門科目4	さらに高めたい専門性について学ぶと同時に追求し、知識と指導力を向上させることができる。	2後	30	2	○	△	○	○							
44		○	イベント・ボランティア活動	学内外で行われる様々なイベントやボランティア活動を通してリーダーシップ、フォローワーシップを体得することができる。	1通・2通	60	2			○	○	○	○					
45		○	海外実学研修	海外の歴史や文化に触れ、国際的な感性を養う。また、施設の見学を通して最先端の技術を学び、学んできたことへの理解を深めることができる。	1後	時数による					○	○	○					
46		○	特別講義	業界で活躍している特別講師を招き、最新の話題についての講義を受け、理解を深めることができる。	1通・2通	4回で1単位			○		○						○	
47		○	健康運動実践指導者基礎講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2前	30	2	○			○						○	
48		○	健康運動実践指導者筆記試験対策講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2後	30	2	○			○						○	
49		○	健康運動実践指導者実技試験対策講座	「健康運動実践指導者」資格を通して、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導ができるようになる。	2後	30	2		○		○						○	
50		○	アスリートフードマイスター	アスリートのパフォーマンスを最大化するための最適な食プログラムを学び、クライアントに合わせた食事指導をすることができる。	1前	15	1	○			○							○
51		○	SAQインストラクターレベル1試験対策講座	スピードシステムや解剖学的な視点から知識や動作を獲得し、コーチング視点を身につけることができる。	1前	30	2		○		○							○
52		○	幼児体育指導者	子どもに身体を動かす楽しさや素晴らしさを伝えることができる。理論・指導手順・手本・補助を正しく学び、自信を持って指導できるスキルを身につけることができる。	1通・2通	15	1		○		○							○
53		○	FTPマットピラティス受験対策講座	身体の内側に意識を集中させ、全身をバランスよく動かしながら、身体の筋肉を鍛えゆがみのない柔軟性のあるしなやかな身体を身につけ、指導することができる。	2前	30	2		○		○							○
54		○	ADI筆記試験対策講座	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2前	30	2	○			○							○
55		○	ADI実技試験対策講座	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2前	30	2		○		○							○
56		○	スキルアップ	集団を動かす指導力と実演力、様々なグループエクササイズに対応できる応用力を身につけることができる。	2前	30	2		○		○							○
57		○	トレーニング指導者基礎講座	科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を修得し、スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導ができるようになる。	2前	30	2	○			○							○
58		○	トレーニング指導者受験対策講座	科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を修得し、スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導ができるようになる。	2後	30	2	○			○							○
59		○	スポーツシューフィッター	足の機能解剖や疾患の評価、治療に関する知識や形態観察とサイジング技術を修得。目的に合った正しいシューズ選びとインソール選択のアドバイスができるようになる。	1後	15	1	○			○							○
60		○	AT受験対策講座	専門的な医学知識を有し、競技者の健康管理、スポーツ障害・外傷の予防、救急処置、アスレティックリハビリテーション及び体力トレーニング、コンディショニングなどができるようになる。	1後	30	2	○			○							○



